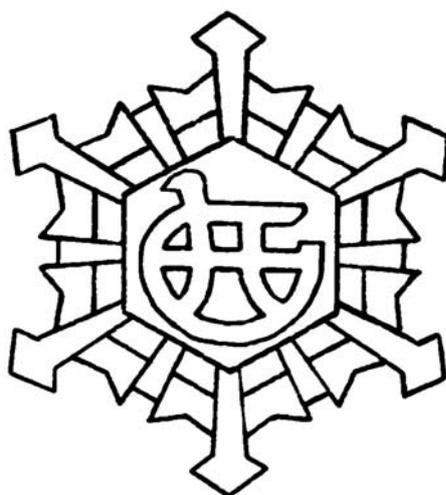


消 防 年 報

平成21年版



鳥取県西部広域行政管理組合

消 防 局

(平成22年刊行)

は じ め に

この消防年報は、鳥取県西部広域行政圏の消防現勢並びに、平成21年における消防行政の執行状況を広く一般に紹介し、今後の消防行政の運営に資するため編さんしたものです。

なお、予算については会計年度を用い、その他の表についてはそれぞれに記載する年月日で表したものです。

平成22年10月

鳥取県西部広域行政管理組合消防局

目 次

鳥取県西部広域行政管理組合管内の概況	1
組合管内全図	2
管内常備消防の沿革	3
歴代の管理者・議長・消防(局)長	14
鳥取県西部広域行政管理組合消防局組織図	15
消防機関の出動状況	16
相互応援協定	17
事務分掌	18
消 防 職 員	
(1)職員配置状況	21
(2)職員在職年数	23
(3)職員年齢構成	24
(4)職員研修状況	25
(5)職員採用試験	26
消防予算の状況	
(1)平成22年度当初予算額の対前年度比較	27
(2)平成22年度当初予算額の財源内訳	28
(3)平成21年度決算額	28
消 防 施 設	
(1)消防庁舎の位置・構造	29
(2)消防吏員待機宿舎概要	29
(3)消防車両等配置数	30
(4)消防車両概況	31
(5)救急・救助	
(5-1)救急隊配置場所	33
(5-2)高規格救急車積載一覧	34
(5-3)救助隊配置場所	35
(5-4)高度救助用資機材一覧	35
(5-5)救助工作車(Ⅲ型)積載一覧	36
(6)通信施設	37
予 防	
(1)防火対象物の現況	40
(2)各種届出事務処理の状況	41
(3)予防査察件数	41
(4)防火指導等状況	41
(5)建築同意の用途別事務処理状況	42
(6)危険物製造所等の現況	43
(7)危険物製造所等の事務処理件数	43
(8)火薬類取締法関係	44
(9)液化石油ガス法関係	44
火 災 概 況	
火災概況	45
別図 I-1 火災件数の推移	46
別図 I-2 火災種別出火ごとの構成比率	46
別図 I-3 月別の火災件数	47
別図 I-4 市町村別火災件数の構成比率	47
別図 I-5 経過別死者発生状況	48
別図 I-6 経過別負傷者発生状況	48
別表 I-1 平成21年の火災の概況	49
別表 I-2 月別火災発生状況	50

別表Ⅰ－3	市町村別火災状況	51
別表Ⅰ－4	出火原因別火災発生概況	52
別表Ⅰ－5	過去5年間の市町村別火災件数	53
救急・救助概況		
救急概況		54
別図Ⅱ－1	事故種別救急出動状況	55
別図Ⅱ－2	事故種別救急搬送状況	55
別図Ⅱ－3	過去5年間の救急推移	56
別図Ⅱ－4	市町村別救急活動状況	56
別図Ⅱ－5	傷病程度別搬送状況	57
別図Ⅱ－6	年齢別搬送状況	57
別図Ⅱ－7	署所別救急活動状況	58
別図Ⅱ－8	月別救急活動状況	58
別図Ⅱ－9	現場到着所要時間	59
別図Ⅱ－10	収容所要時間	59
別図Ⅱ－11	応急手当実施状況	60
別図Ⅱ－12	高度救命処置状況	60
別図Ⅱ－13	医師引き継ぎ時の状況	60
別図Ⅱ－14	過去5年間の救急講習件数推移	61
別図Ⅱ－15	過去5年間の救急講習人員推移	61
別図Ⅱ－16	応急手当指導員・普及員の養成	61
救助概況		62
別図Ⅲ－1	事故種別救助出動状況	63
別図Ⅲ－2	事故種別救助活動状況	63
別図Ⅲ－3	事故種別救助人員状況	64
別図Ⅲ－4	管轄別救助活動状況	64
別図Ⅲ－5	市町村別救助活動状況	65
別図Ⅲ－6	月別救助活動状況	65
119番着信概況		
119番着信概況		66
別表Ⅳ－1	119番着信件数の推移	67
別表Ⅳ－2	月別119番着信状況	67
別表Ⅳ－3	電話種別による119番着信件数の推移	68
別表Ⅳ－4	電話種別毎の通報状況	68
別表Ⅳ－5	携帯電話からの着信状況	68
別表Ⅳ－6	携帯電話の消防機関別転送状況	69
別図Ⅳ－1	通報内容別着信状況	69
別図Ⅳ－2	月別着信状況	70
別図Ⅳ－3	電話種別毎の着信比率	70
別図Ⅳ－4	時間帯別着信件数の推移	71
別図Ⅳ－5	電話種別による通報状況	71
消防団・水利・大火災記録		
消防団の人員と装備		72
管内水利状況		73
大火災記録		74
関係団体		
〔米子市危険物保安協会〕		76
〔米子自衛防火協会〕		78
〔境港市消防保安協会〕		79

鳥取県西部広域行政管理組合管内の概況

位置と地勢

当組合は、鳥取県の西部に位置し、中海を抱く米子市・境港市を中心として西伯郡・日野郡の2市2郡（9市町村）で構成されている。

米子市は、この地域における行政・交通・教育・文化など多面的な中枢機能をもつ山陰有数の商業都市であり、それと隣接する境港市は、日本海に面する重要港湾境港により海外貿易の門戸として、また沖合漁業の基地として知られ、弓浜半島の先端部に位置している。

米子市の南部、法勝寺川の流域平野部に南部町があり、西域は島根県境と接しており、また名峰「大山」を臨む東部日本海沿岸部には日吉津村・大山町（西伯郡）があり、平坦部には肥沃な農地が拓け、沿岸漁業も盛んである。

一級河川日野川の流域、遠く岡山・広島県境に至る中国山地に日南・日野・江府の各町（日野郡）が位置し、日野路への進入路には米子市と隣接して伯耆町（西伯郡）がある。

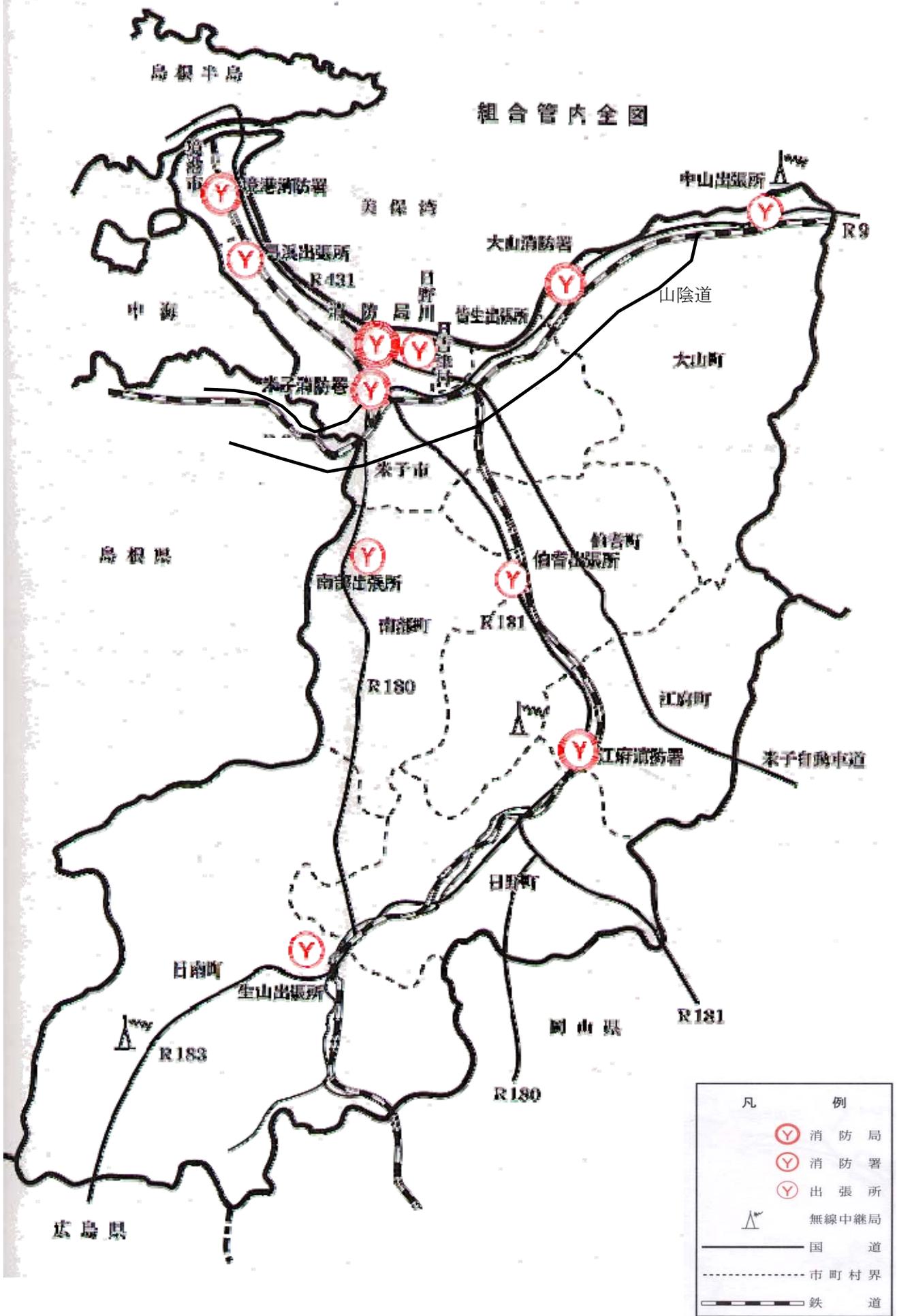
人口・世帯数・面積

平成22年4月1日現在

構成市町村	人口(人)	世帯数(世帯)	面積(km ²)
米子市	148,049	57,326	132
境港市	35,114	13,159	29
日吉津村	3,238	1,039	4
大山町	17,647	5,470	189
南部町	11,591	3,629	114
伯耆町	11,679	3,676	139
日南町	5,412	2,115	341
日野町	3,764	1,397	134
江府町	3,340	1,077	125
合計	239,834	88,888	1,207

(鳥取県市町村別推計人口による)

組合管内全図



凡	例
(Y)	消防局
(Y)	消防署
(Y)	出張所
△	無線中継局
—	国道
- - -	市町村界
—+—	鉄道

管内常備消防の沿革

1. 米子市の消防

- 明治 26 年 3 月 米子町消防条例を制定し、定員21人、消防ポンプ2台(機種不明)をもって消防組を編成した。
- 昭和 2 年 4 月 市制実施
- 昭和 6 年 4 月 消防ポンプ自動車1台購入配置、森田式タービンポンプ4気筒A型フォード製
- 昭和 9 年 米子市公設消防組設置、消防ポンプ自動車1台、消防夫20人の常備制をとり、詰所を市役所内においた。
- 昭和 14 年 4 月 警防団令の施行によって、米子市警防団を結成し、消防組は警防団の消防部となった。
- 昭和 18 年 4 月 消防部の詰所を富士見町2丁目126番地に移転した。
- 昭和 22 年 4 月 消防団令が公布されて、警防団は解散し、新しく米子市消防団が結成されたが、消防部は市の常備消防部となった。
- 昭和 23 年 9 月 消防組織法の施行により米子市消防本部及び米子市消防署が設置され、消防職員24人、消防ポンプ自動車3台で業務開始した。初代吉村泰之消防長就任(収入役兼務)
- 昭和 24 年 7 月 小型消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 24 年 9 月 小型消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 25 年 10 月 消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 26 年 4 月 消防職員43人となる。(内2人は本庁兼務)
- 昭和 28 年 4 月 消防職員46人となる。(")
- 昭和 30 年 11 月 消防庁舎を増改築した。木造瓦葺2階建延面積464. 477㎡、消防職員定数54人となる。
- 昭和 30 年 11 月 消防ポンプ自動車1台を購入配置
- 昭和 31 年 5 月 2代船越照郷消防長就任
- 昭和 31 年 7 月 消防本部係制実施(庶務、予防第一、予防第二、消防、機械の5係)
- 昭和 32 年 11 月 消防ポンプ自動車1台購入配置
- 昭和 33 年 4 月 指揮車(ジープ型)1台購入配置
- 昭和 34 年 4 月 日本損害保険協会から消防ポンプ自動車1台の寄贈を受けた。(損保号)
- 昭和 37 年 11 月 消防ポンプ自動車1台を購入配置(2号車)
- 昭和 38 年 7 月 3代戸田勇消防長就任
- 昭和 40 年 4 月 4代吉村純一郎消防長就任
- 昭和 40 年 9 月 5代松田宏消防長就任
- 昭和 40 年 9 月 広報車1台購入配置(日本消防協会配車)
- 昭和 41 年 9 月 消防ポンプ自動車1台購入配置(1号車)
- 昭和 42 年 6 月 消防本部に課制実施(警防課、総務課)

昭和42年7月 消防職員定員65人となる。

昭和42年12月 救急自動車1台、化学車1台購入配置

昭和42年12月 富士見地区区画整理事業実施により富士見町1丁目103番地1に新庁舎を新築移転した。鉄筋コンクリート造3階建延総面積13,207㎡

昭和43年2月 救急業務開始

昭和43年3月 水そう付消防ポンプ自動車1台購入配置(速消車)

昭和43年11月 消防ポンプ自動車1台購入配置(6号車)

昭和44年3月 屈折梯子付消防ポンプ自動車購入配置(スノーケル車)

昭和44年4月 6代植田実消防長就任

昭和45年3月 消防ポンプ自動車1台購入配置(5号車)

昭和45年11月 日本損害保険協会から水そう付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受けた。(火災保険号)

昭和47年4月 消防職員の定数70人となる。

昭和47年5月 指揮車を購入し更新配置した。(指揮1号)

昭和48年4月 消防職員の定数72人となる。

昭和48年12月 救急自動車1台を購入配置した。(救急2号)

昭和49年1月 小型トラック1台を購入配置した。(作業車)

昭和49年6月 広報車1台購入配置した。(広報2号)

昭和50年3月 消防ポンプ自動車1台購入配置

昭和50年4月 西伯郡7町村(西伯、岸本、会見、淀江、大山、名和町及び日吉津村)から救急業務を受託して業務開始、消防職員定数77人となる。

昭和50年7月 東京海上火災保険株式会社から広報車1台の寄贈を受けた。(広報1号)

昭和50年8月 鳥取県共済農業協同組合から救急自動車1台の寄贈を受けた。(救急3号)

昭和50年9月 日本消防協会から救急自動車1台の寄贈を受けた。(救急1号)

昭和51年1月 7代名和義則消防長就任

昭和51年4月 皆生1661番地に皆生出張所を開設し、分遣隊による業務開始。鉄筋コンクリート造平屋建延面積391.957㎡、消防職員定数79人となる。

2. 境港市の消防

昭和31年5月 境港市消防本部設置(市制施行に伴う)
西村清美団長 団員定数150名(6ヶ分団)
消防ポンプ自動車 6台

昭和31年5月 境港市消防団常備部開設
常備部長 西村清美団長 中嶋登美夫主任
常備部定員14名 消防ポンプ自動車A2級1台(S28.2購入)
消防専用中短波無線電話 基地局1、移動局2
庁舎 木造瓦葺2階建(延106.38㎡)
(第1分団(境)の消防車庫を改築し、待機室、仮眠室増設)

	所在地、境港市上道町1, 703番地
昭和 31 年 10 月	常備部定員18名となり、4名増員
昭和 33 年 9 月	全市内に上水道消火栓が敷設させる。初年度92ヶ所
昭和 34 年 7 月	境港市消防本部・消防署設置 林 義人消防長（署長兼務） 署員定数19名
昭和 36 年 5 月	消防庁舎新築(延353. 17㎡) 所在地 境港市上道町1, 600番地
昭和 36 年 11 月	消防署員10名増員 署員定数 29名
昭和 37 年 7 月	消防ポンプ自動車(A2級)1台新設(損害保険協会より寄贈を受ける)
昭和 39 年 4 月	救急業務開始。救急車(ジープ型)1台配置(日赤鳥取支部より貸与)
昭和 40 年 3 月	救急車(セドリック)更新(日赤貸与)
昭和 42 年 10 月	2代梶野利雄消防長（市総務課長兼務）
昭和 42 年 12 月	3代景山善次郎消防長（市収入役兼務） 化学消防ポンプ自動車(1型)1台新設 境港市消防保安協会より購入費一部(100万円)採納、購入額4, 345千円
昭和 43 年 3 月	消防専用超短波無線電話設置(中短波を更新)5基(固定局1、基地局4)
昭和 43 年 4 月	消防署組織改編。庶務、警防、予防3係設置
昭和 43 年 9 月	4代中嶋登美夫消防長（専任、署長兼務）
昭和 44 年 12 月	消防ポンプ自動車(A1級)1台新設。購入額2, 386千円
昭和 45 年 1 月	救急車(ニッサンB型)1台新設(消防庁より寄贈)
昭和 45 年 4 月	水そう付消防ポンプ自動車(1型、A1級)1台新設。購入額3, 180千円
昭和 46 年 5 月	広報連絡車(三菱ギャラン)1台新設(日本消防協会より寄贈)
昭和 46 年 12 月	消防専用超短波無線電話(移動局)2基増設
昭和 48 年 1 月	消防ポンプ自動車(A2級)1台増設。購入額2, 705千円
昭和 48 年 3 月	消防専用超短波無線電話、周波数改正により更新(周波数152. 08MC) 基地局1基、移動局2基
昭和 49 年 3 月	消防専用超短波無線電話、移動局3基更新(周波数改正)
昭和 50 年 4 月	消防本部組織改編、課制施行。消防課、庶務係、警防係、予防係、1課3係
昭和 50 年 9 月	救急車(2B型)1台増設。(日本消防協会より寄贈)
昭和 50 年 9 月	救急車(セドリック)1台廃棄。(日赤鳥取支部より貸与分)

3. 鳥取県西部広域行政管理組合の消防

昭和 51 年 5 月	“鳥取県西部広域消防発足” 鳥取県西部地域における常備消防体制の確立をはかるため、鳥取県西部広域行政管理組合(米子市、境港市、西伯町、会見町、岸本町、日吉津村、淀江町、大山町、名和町、中山町、日南町、日野町、江府町及び溝口町の2市12町村で構成)においては、昭和51年4月13日政令指定を受け、組合において消防業務を処理することになり、昭和51年5月1日組合消防本部、米子消防署、境港消防署を開庁
-------------	---

して業務を開始し、全面業務開始の昭和51年10月1日に向け、庁舎の建設、人員、器材の整備充足を図ることになった。

発足時の消防勢力は、消防職員数112人、消防ポンプ自動車8台、水そう付ポンプ自動車3台、化学消防自動車2台、屈折はしご付消防ポンプ自動車1台、救急自動車5台、指揮車1台、査察広報車3台、作業車1台

火災出場は、米子市、境港市の区域とし、救急出場は、米子市、境港市及び西伯郡の区域とする。

初代名和義則消防長就任

- | | |
|-------------------|--|
| 昭和 51 年 6 月 2 日 | 住友生命相互会社から救急自動車(無線機付)1台の寄贈を受けた。 |
| 昭和 51 年 7 月 1 日 | 消防職員31人を採用した。 |
| 昭和 51 年 7 月 16 日 | 広報車1台を購入した。(日本消防協会配車) |
| 昭和 51 年 8 月 1 日 | 松江地区消防組合及び安来市能義郡消防組合との間に中海消防相互応援協定を締結した。 |
| 昭和 51 年 9 月 25 日 | 消防ポンプ自動車2台を購入した。(江府、大山出張所配置) |
| 昭和 51 年 9 月 30 日 | 広報車1台を購入した。 |
| 昭和 51 年 10 月 1 日 | 米子消防署大山出張所及び江府出張所を開設し、管内全域において業務運用開始。 |
| 昭和 51 年 10 月 2 日 | 救急指令装置完成 |
| 昭和 51 年 11 月 13 日 | 40m級梯子付消防自動車を購入し、米子消防署に配備 |
| 昭和 51 年 11 月 15 日 | 日本損害保険協会から救急自動車1台の寄贈を受け、大山出張所に配置 |
| 昭和 52 年 2 月 22 日 | 消防ポンプ自動車4台を購入した。(西伯、溝口、生山、中山出張所配置) |
| 昭和 52 年 3 月 14 日 | 消防ポンプ自動車1台を購入した。(弓浜出張所配置) |
| 昭和 52 年 3 月 29 日 | 古峠山無線中継局が完成した。 |
| 昭和 52 年 4 月 1 日 | 消防職員の定数208人となる。
消防職員67人を採用し、彦名小学校跡において彦名消防研修所を開設して初任研修を開始した。 |
| 昭和 52 年 4 月 26 日 | 広報車1台を購入した。(中山出張所配置) |
| 昭和 52 年 5 月 1 日 | 退職職員の補充として消防職員4人を採用した。 |
| 昭和 52 年 5 月 17 日 | 指揮車1台を購入し、米子消防署に配置 |
| 昭和 52 年 6 月 30 日 | 彦名消防研修所の研修を修了し、閉所した。 |
| 昭和 52 年 7 月 1 日 | 米子消防署西伯出張所、同溝口出張所、同生山出張所、同中山出張所の庁舎が完成し、それぞれ業務を開始した。
境港市小篠津町668番地の仮庁舎で、境港消防署弓浜出張所を開設し、業務を開始した。 |
| 昭和 52 年 9 月 17 日 | 日本消防協会から救急自動車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。 |
| 昭和 52 年 10 月 4 日 | 鳥取県共済生活協同組合から広報車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。 |
| 昭和 52 年 11 月 1 日 | 境港消防署弓浜出張所庁舎の工事が完成し、米子市大篠津町2, 913番地1の新庁舎において業務を開始し、仮庁舎を閉所した。 |
| 昭和 52 年 12 月 9 日 | 消防ポンプ自動車(CD-I)7台を購入し、江府、大山、西伯、溝口、生山、中山、弓浜の各出張所に配置した。 |

昭和 53 年 2 月 6 日	株式会社菊屋から救急自動車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
昭和 53 年 3 月 31 日	中部広域行政管理組合との間に西部、中部地区消防相互応援協定を締結した。
昭和 53 年 5 月 1 日	退職職員の補充として消防職員2人を採用した。
昭和 53 年 5 月 30 日	日本損害保険協会から水そう付消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
昭和 53 年 6 月 1 日	退職職員の補充として、消防職員1人を採用した。
昭和 53 年 6 月 9 日	指揮広報車2台を購入し、西伯出張所及び溝口出張所に配置した。
昭和 53 年 11 月 27 日	消防ポンプ自動車(CD-I)2台を購入し、米子消防署及び皆生出張所に配置した。
昭和 53 年 11 月 28 日	日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車1台の寄贈を受け、境港消防署に配置した。
昭和 54 年 2 月 20 日	救助工作車1台を購入し、米子消防署に配置した。
昭和 54 年 4 月 1 日	消防職員の定数220人となる。 消防職員12人を採用した。
昭和 54 年 6 月 5 日	指令広報車1台を購入し、境港消防署弓浜出張所に配置した。
昭和 54 年 6 月 11 日	指揮車1台を購入し、米子消防署に配置した。
昭和 54 年 10 月 1 日	本部総務課に教養係を設け、本部予防課指導係を廃して危険物係、建築係とし、境港消防署に機械係を設けた。
昭和 54 年 10 月 13 日	境港美保ライオンズクラブから救急車1台の寄贈を受け、境港消防署に配置した。
昭和 54 年 10 月 17 日	水そう付消防ポンプ自動車1台を購入し、米子消防署に配置した。
昭和 54 年 10 月 27 日	消防ポンプ自動車(BD-I型)1台を購入し、境港消防署に配置した。
昭和 54 年 11 月 1 日	山陰酸素工業株式会社から広報車1台の寄贈を受け米子消防署に配置した。
昭和 54 年 12 月 1 日	指令広報車1台を購入し、境港消防署に配置した。
昭和 55 年 3 月 26 日	合資会社キョートスポーツから救急車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置した。
昭和 55 年 4 月 1 日	消防職員の定数232人となる。 消防職員14人を採用
昭和 55 年 7 月 1 日	中山出張所及び生山出張所救急業務を開始
昭和 55 年 8 月 27 日	日本消防協会から救急車1台の寄贈を受け、中山出張所に配置
昭和 55 年 8 月 29 日	日本消防協会から司令広報車1台の寄贈を受け、米子消防署に配置
昭和 55 年 10 月 29 日	中山地区前進基地局開局(消防無線呼出名称西部消防中山)
昭和 55 年 11 月 7 日	消防ポンプ自動車(BD-1型)1台を購入し、米子消防署に配置
昭和 55 年 11 月 25 日	水そう付消防ポンプ自動車1台を購入し、境港消防署に配置
昭和 55 年 12 月 5 日	鳥取県消防設備保安協会より原動機付自転車2台及び和文タイプライター1台の寄贈を受け、米子消防署に配置
昭和 55 年 12 月 26 日	化学消防自動車1台を購入し、米子消防署に配置
昭和 56 年 1 月 20 日	救急車(3B型)1台を購入し、米子消防署に配置
昭和 56 年 4 月 1 日	消防職員の定数242人 消防職員14人採用
昭和 56 年 7 月 24 日	空気呼吸器充填用高圧コンプレッサーを皆生出張所に配備

昭和 56 年 9 月 30 日	日本消防協会から小型工作車1台の寄贈を受け、境港消防署に配置
昭和 56 年 11 月 30 日	水槽付消防ポンプ自動車1台を購入し、皆生出張所に配置
昭和 57 年 4 月 1 日	消防職員の定数246人 消防職員9人採用 消防本部の機構の一部改正(1本部4署、6出張所) 大山消防署、江府消防署開設(米子消防署大山、江府出張所をそれぞれ消防署に昇格) 第2代仲田末男消防長就任
昭和 57 年 5 月 31 日	指揮車1台更新(米子消防署)
昭和 57 年 6 月 1 日	防火基準適合表示制度(「表示マーク」交付)実施
昭和 57 年 7 月 16 日	小型動力ポンプB2級2台を購入し米子、大山消防署に配置
昭和 57 年 11 月 16 日	消防ポンプ自動車(CD-Ⅱ型)1台更新(米子消防署)
昭和 58 年 3 月 31 日	中山地区救急波前進基地局新設
昭和 58 年 4 月 1 日	鳥取県消防学校開校 教官として2名の職員を派遣した。
昭和 58 年 8 月 31 日	日本消防協会から救急自動車(2B型)1台の寄贈を受け境港消防署に配置
昭和 59 年 2 月 24 日	小型動力ポンプB2級2台を購入し西伯、中山出張所に配置
昭和 59 年 3 月 9 日	日本損害保険協会から救急自動車(2B型)1台の寄贈を受け大山消防署 中山出張所に配置
昭和 59 年 7 月 1 日	第3代西田英二消防長就任
昭和 59 年 7 月 20 日	消防本部庁舎に冷房設備を取付けた。
昭和 59 年 12 月 25 日	無線施設空中線塔の改修工事を行なった。
昭和 60 年 3 月 10 日	境港消防署庁舎に冷暖房設備を取付けた。
昭和 60 年 3 月 20 日	大山消防署中山出張所移転新築落成。中山町松河原弓ノ木880 (起工 昭和59年8月7日)
昭和 60 年 8 月 15 日	境港消防署第2消防車庫新築落成 (起工 昭和60年5月20日)
昭和 60 年 8 月 21 日	日本消防協会から救急自動車(2B型)1台の寄贈を受け米子消防署に配置
昭和 61 年 5 月 22 日	指令車1台を購入し、消防本部に配置
昭和 61 年 9 月 27 日	山陰酸素工業株式会社から連絡車1台の寄贈を受け、消防本部に配置
昭和 61 年 11 月 25 日	山之内製薬株式会社より救急車1台の寄贈を受け、大山消防署に配置
昭和 62 年 7 月 25 日	指揮車1台を購入し、消防本部に配置
昭和 62 年 8 月 19 日	江府消防署及び生山出張所の冷暖房設備改修工事を行なった。
昭和 62 年 9 月 3 日	日本消防協会より電源照明車1台の寄贈を受け、皆生出張所に配置
昭和 63 年 3 月 23 日	日本損害保険協会より救急車1台の寄贈を受け、江府消防署に配置
昭和 63 年 4 月 1 日	退職職員の補充として、消防職員3人を採用した。定数246名
昭和 63 年 6 月 29 日	大山消防署の冷暖房設備の改修工事を行った。
昭和 63 年 7 月 4 日	広報車1台更新(皆生出張所)
昭和 63 年 8 月 2 日	日本消防協会から救急車(2B型)1台の寄贈を受け皆生出張所に配置
昭和 63 年 9 月 1 日	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車(BD-Ⅰ型)1台の寄贈を受け米子 消防署に配置
昭和 63 年 11 月 15 日	消防ポンプ自動車[(CD-Ⅰ型)電動ホースカー付]1台を購入

平成元年2月25日 消防ポンプ自動車(CD-I型)1台更新(境港消防署)

平成元年3月30日 消防本部の受水槽設備の改修及び米子消防署の車庫排気ダクト設備の工事を行った。

平成元年4月1日 第4代岩佐弘志消防長就任
消防職員定数253名
消防職員11名採用

平成元年5月22日 広報車2台更新(江府、大山消防署配置)

平成元年9月25日 超短波無線電話装置の設置

平成元年10月1日 溝口出張所に救急隊設置

平成元年10月25日 溝口出張所庁舎の増築、改修工事

平成元年10月27日 15m級梯子付消防自動車1台を購入、皆生出張所に配置

平成元年10月30日 救助用資機材(ホルマトロ)一式を購入、米子消防署に配置

平成元年11月2日 作業車1台更新(米子消防署)

平成元年12月25日 溝口出張所に救急自動車(2B型4WD)1台配置

平成2年4月1日 消防職員定数258名
消防職員7名採用

平成2年4月1日 米子消防署皆生出張所に特別救助隊を設置し、業務を開始した。

平成2年6月23日 広報車3台を購入、皆生、中山、生山出張所に配置

平成2年7月31日 梯子車分解整備、西伯出張所ホース乾燥塔補強

平成2年8月21日 (有)日本消防協会から携帯無線機10台、拡声器2台を寄贈

平成2年8月21日 (有)日本消防協会から指令広報車1台寄贈、境港消防署に配置

平成2年9月6日 救急車(2B型4WD)を購入、生山出張所に配置

平成2年9月18日 日本防火協会から防火広報車1台寄贈、消防本部に配置

平成2年11月21日 生山出張所改装工事

平成2年11月30日 超短波無線電話装置消防波10W2台、救急波10W3台購入

平成2年12月14日 消防ポンプ自動車2台購入、大山、江府消防署に配置

平成2年12月21日 消防本部防水及び外壁改装工事

平成3年1月21日 危険物第4類試験装置一式購入

平成3年2月6日 安田生命保険相互会社から救急自動車(日産2B型)1台寄贈、境港消防署に配置

平成3年3月20日 江府消防署敷地拡幅造成工事

平成3年3月25日 米子消防署仮眠室空調機取替修繕

平成3年3月27日 油圧切断機1台購入

平成3年4月1日 消防職員定数262名
消防職員12名採用

平成3年4月25日 日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車1台寄贈、境港消防署に配置

平成3年7月12日 査察用軽自動車2台購入
米子消防署、溝口出張所に配置

平成3年8月20日 西伯出張所冷暖房改修工事

平成3年9月5日 (有)日本消防協会から救急車1台寄贈、米子消防署に配置

平成3年10月1日 大山消防署敷地拡幅造成工事

平成3年10月22日 消防本部新庁舎建設用地取得

平成 3 年 11 月 27 日 超短波無線電話装置購入
消防波10W2台、救急波1台

平成 4 年 1 月 10 日 消防ポンプ自動車2台購入、中山、生山出張所に配置

平成 4 年 1 月 11 日 消防本部庁舎新築工事着工

平成 4 年 3 月 2 日 空気呼吸器5基、軽量ボンベ9本購入

平成 4 年 5 月 4 日 救急救命士誕生

平成 4 年 7 月 11 日 消防本部主訓練塔新築工事着工
消防本部緊急通信指令施設設置工事着工
消防無線設備改修工事着工
(消防本部・古峠山中継所・日南前進基地・中山前進基地)

平成 4 年 9 月 16 日 (財)日本消防協会から防火広報車寄贈、消防本部配置

平成 4 年 12 月 21 日 高規格救急車1台購入、米子消防署配置
啓発広報車1台購入、消防本部配置

平成 5 年 1 月 22 日 米子消防署救急救命隊発足・業務開始

平成 5 年 2 月 28 日 消防本部庁舎新築工事完成

平成 5 年 3 月 20 日 消防本部主訓練塔新築工事完成

平成 5 年 3 月 26 日 消防本部緊急通信指令施設設置工事完成
消防無線設備改修工事完成
(消防本部・古峠山中継所・日南前進基地・中山前進基地)

平成 5 年 4 月 1 日 消防本部移転、名称も消防本部から消防局に改名
同時に、消防局に指令課を新設
消防職員12名採用

平成 5 年 5 月 24 日 査察用軽自動車2台購入
中山、生山出張所に配置

平成 5 年 6 月 3 日 広報車2台更新(西伯、溝口出張所)

平成 5 年 8 月 30 日 (財)日本消防協会から防火広報車寄贈、消防局に配置

平成 5 年 10 月 1 日 西伯出張所に救急隊設置

平成 5 年 11 月 15 日 西伯出張所の増築・改修工事完成

平成 5 年 1 月 26 日 消防ポンプ自動車2台購入、皆生、西伯出張所に配置

平成 6 年 2 月 26 日 山之内製菓株式会社より救急車1台寄贈、中山出張所に配置

平成 6 年 4 月 1 日 消防職員定員284名
消防職員11名採用

平成 6 年 5 月 10 日 査察用軽自動車2台購入(皆生出張所・西伯出張所に配置)

平成 6 年 5 月 25 日 広報車2台更新(消防局・弓浜出張所に配置)

平成 6 年 9 月 29 日 弓浜出張所庁舎の増築・改修・車庫の新築工事完成

平成 6 年 10 月 1 日 弓浜出張所に救急隊配備

平成 6 年 10 月 13 日 大山消防署救急車の更新

平成 7 年 1 月 17 日 阪神・淡路大震災、救助・救急隊災害派遣(1次～4次)

平成 7 年 2 月 10 日 溝口出張所1号車の更新

平成 7 年 3 月 27 日	(財)日本損害保険協会から高規格救急車寄贈、境港消防署に配置 (弓浜出張所1号車更新)
平成 7 年 4 月 1 日	第5代石上洋二消防局長就任 消防職員3名採用
平成 7 年 4 月 3 日	境港消防署、救急救命隊発足・業務開始
平成 7 年 12 月 23 日	境港消防署、新庁舎完成
平成 8 年 1 月 22 日	消防ポンプ自動車3台購入(米子消防署・大山消防署・江府消防署 に配置)
平成 8 年 2 月 26 日	米子市から連絡車寄贈、消防局に配置
平成 8 年 3 月 26 日	消防ポンプ自動車1台購入、生山出張所に配置
平成 8 年 3 月 28 日	救助工作車(Ⅲ型)1台購入
平成 8 年 4 月 1 日	消防職員定員287名
平成 8 年 4 月 25 日	救助工作車(Ⅲ型)皆生出張所に配置
平成 8 年 5 月 1 日	西部広域消防発足20周年記念式典開催
平成 8 年 12 月 19 日	25m級梯子車1台購入、境港消防署に配置
平成 8 年 12 月 25 日	査察用軽自動車1台購入、弓浜出張所に配置
平成 9 年 1 月 31 日	消防ポンプ自動車2台購入(西伯出張所・溝口出張所に配置)
平成 9 年 4 月 1 日	消防職員5名採用
平成 9 年 8 月 20 日	日本宝くじ協会から消火通報指導車寄贈、消防局に配置
平成 9 年 9 月 16 日	高規格救急車1台購入、大山消防署に配置
平成 9 年 10 月 1 日	大山消防署、救急救命隊業務開始
平成 9 年 11 月 7 日	タンク車及び消防ポンプ自動車各1台購入、弓浜出張所・中山出張 所に配置
平成 9 年 11 月 25 日	皆生出張所庁舎の増築・改修工事完成
平成 9 年 12 月 25 日	資機材搬送車1台購入、米子消防署に配置
平成 10 年 4 月 1 日	消防職員1名採用
平成 10 年 7 月 1 日	境港消防署に水難救助隊を設置し、業務を開始した。
平成 10 年 7 月 6 日	鳥取県消防防災航空隊の運用を開始した。 3名の職員を派遣
平成 10 年 11 月 30 日	江府消防署庁舎の増築・改修工事完成
平成 11 年 1 月 14 日	高規格救急車1台購入、江府消防署に配置
平成 11 年 1 月 25 日	消防ポンプ自動車2台購入(米子消防署・境港消防署に配置)
平成 11 年 1 月 25 日	タンク車1台購入、米子消防署に配置
平成 11 年 2 月 1 日	江府消防署、救急救命隊業務開始
平成 11 年 3 月 10 日	現場指揮車1台購入、米子消防署に配置
平成 11 年 3 月 31 日	境海上保安部と鳥取県西部消防局との消防業務協定
平成 11 年 4 月 1 日	消防職員1名採用
平成 11 年 5 月 7 日	鳥取県西部圏域危険物等事故対策協議会設立総会開催
平成 11 年 8 月 19 日	鳥取県西部圏域危険物等事故対策協議会合同訓練会
平成 11 年 12 月 31 日	Y2K越年警戒体制
平成 12 年 1 月 24 日	消防ポンプ自動車1台購入、米子消防署に配置
平成 12 年 1 月 24 日	タンク車1台購入、境港消防署に配置
平成 12 年 1 月 31 日	大山消防署庁舎の増築・改修工事完成

平成 12 年 2 月 21 日	救助工作車(Ⅱ型)1台購入、境港消防署に配置
平成 12 年 3 月 23 日	(財)日本損害保険協会から高規格救急車寄贈、米子消防署に配置 米子救急救命車を更新
平成 12 年 3 月 27 日	大山消防署敷地拡幅
平成 12 年 10 月 6 日	鳥取県西部地震発生(13時30分・マグニチュード7.6)
平成 13 年 1 月 15 日	高規格救急車1台購入、生山出張所に配置
平成 13 年 1 月 16 日	40m級梯子車1台購入、米子消防署に配置
平成 13 年 2 月 1 日	生山出張所、救急救命隊業務開始
平成 13 年 2 月 28 日	化学消防自動車1台購入、境港消防署に配置
平成 13 年 4 月 1 日	第6代清水 隆消防局長就任
平成 13 年 4 月 1 日	消防職員7名採用、防災支援要員4名配置
平成 13 年 4 月 1 日	鳥取県防災監危機管理課に職員1名を派遣
平成 13 年 11 月 19 日	高規格救急車1台購入、中山出張所に配置
平成 13 年 12 月 1 日	中山出張所、救急救命隊業務開始
平成 14 年 1 月 31 日	(財)日本損害保険協会からタンク車寄贈、皆生出張所に配置
平成 14 年 1 月 31 日	中山出張所改築改修工事完成
平成 14 年 4 月 1 日	第7代廣谷耕史消防局長就任
平成 14 年 4 月 1 日	消防職員3名採用
平成 14 年 4 月 1 日	大山消防署特殊災害隊発足
平成 14 年 12 月 20 日	広報車1台購入、皆生出張所に配置
平成 15 年 1 月 21 日	救助工作車(Ⅱ型)1台購入、江府消防署に配置
平成 15 年 3 月 20 日	指揮車1台購入、境港消防署に配置
平成 15 年 4 月 1 日	消防職員3名採用
平成 15 年 4 月 1 日	鳥取県防災監消防課に職員1名を派遣
平成 15 年 10 月 15 日	広報車2台購入(米子消防署・大山消防署に配置)
平成 15 年 11 月 17 日	高規格救急車1台購入、西伯出張所に配置
平成 15 年 12 月 1 日	西伯出張所、救急救命隊業務開始
平成 16 年 3 月 5 日	広報車2台購入(中山出張所・生山出張所に配置)
平成 16 年 3 月 17 日	指揮車2台購入(大山消防署・江府消防署に配置)
平成 16 年 4 月 1 日	消防職員1名採用
平成 16 年 4 月 1 日	総務省消防庁に職員1名を派遣
平成 16 年 10 月 1 日	西伯町と会見町が合併し、南部町が誕生
平成 16 年 10 月 1 日	米子消防署西伯出張所を米子消防署南部出張所に名称変更
平成 16 年 11 月 29 日	高規格救急車1台購入、溝口出張所に配置
平成 16 年 12 月 15 日	溝口出張所、救急救命隊業務開始
平成 17 年 1 月 1 日	岸本町と溝口町が合併し、伯耆町が誕生
平成 17 年 1 月 1 日	江府消防署溝口出張所を米子消防署伯耆出張所に名称変更
平成 17 年 1 月 12 日	消防ポンプ自動車1台購入、境港消防署に配置
平成 17 年 2 月 23 日	高規格救急車1台購入、弓浜出張所に配置
平成 17 年 3 月 9 日	弓浜出張所、救急救命隊業務開始
平成 17 年 3 月 28 日	大山町・名和町・中山町が合併し、大山町が誕生
平成 17 年 3 月 31 日	指令設備を更新し、高機能指令システムを導入
平成 17 年 3 月 31 日	米子市と淀江町が合併し、米子市が誕生

平成 17 年 4 月 1 日	第8代中田正男消防局長就任
平成 17 年 4 月 1 日	消防職員定員292名
平成 17 年 4 月 1 日	消防職員8名採用
平成 17 年 11 月 20 日	高規格救急車1台購入、米子消防署に配置
平成 17 年 12 月 1 日	皆生出張所、米子消防署救急2分隊高規格救急車を使用し 救急救命隊業務開始
平成 17 年 12 月 21 日	(財)日本損害保険協会から高規格救急車寄贈、皆生出張所に配置
平成 18 年 2 月 28 日	タンク車1台購入、伯耆出張所に配置
平成 18 年 4 月 1 日	消防職員2名採用
平成 18 年 4 月 1 日	総務省消防庁に職員1名派遣
平成 18 年 11 月 24 日	米子市危険物保安協会から広報車1台寄贈、消防局に配置
平成 19 年 2 月 23 日	タンク車1台購入、大山消防署に配置
平成 19 年 4 月 1 日	米子消防署 新庁舎完成
平成 19 年 4 月 1 日	消防職員2名採用
平成 19 年 11 月 28 日 ～ 29 日	平成19年度中国・四国ブロック 緊急消防援助隊合同訓練
平成 19 年 12 月 24 日	化学車1台購入、米子消防署に配置
平成 19 年 12 月 31 日	消防無線基幹改良工事
平成 20 年 1 月 31 日	高規格救急車1台購入、大山消防署に配置
平成 20 年 4 月 1 日	第9代浦木 昇消防局長就任
平成 20 年 4 月 1 日	消防職員3名採用
平成 20 年 4 月 1 日	総務省消防庁に職員1名派遣
平成 21 年 1 月 28 日	消防ポンプ自動車1台購入、 生山出張所に配置
平成 21 年 2 月 19 日	高規格救急車1台購入、米子消防署に配置
平成 21 年 4 月 1 日	消防職員5名採用
平成 21 年 11 月 2 日	高度救助隊発足
平成 21 年 12 月 9 日	国際消防援助隊登録
平成 22 年 1 月 26 日	高規格救急車1台購入、江府消防署に配置
平成 22 年 2 月 15 日	消防ポンプ自動車1台購入、 皆生出張所に配置
平成 22 年 3 月 26 日	高規格救急車1台購入、境港消防署に配置
平成 22 年 4 月 1 日	第10代桑名 強消防局長就任
平成 22 年 4 月 1 日	消防職員定員304名
平成 22 年 4 月 1 日	消防職員14名採用
平成 22 年 4 月 1 日	国際消防救助隊員6名登録

歴代の管理者・議長・消防長

歴代管理者

米子市長	河合弘道 (S47. 4. 30～S58. 4. 29)
"	松本徹 (S58. 4. 30～H 3. 4. 29)
"	森田隆朝 (H 3. 4. 30～H15. 4. 29)
"	野坂康夫 (H15. 4. 30～)

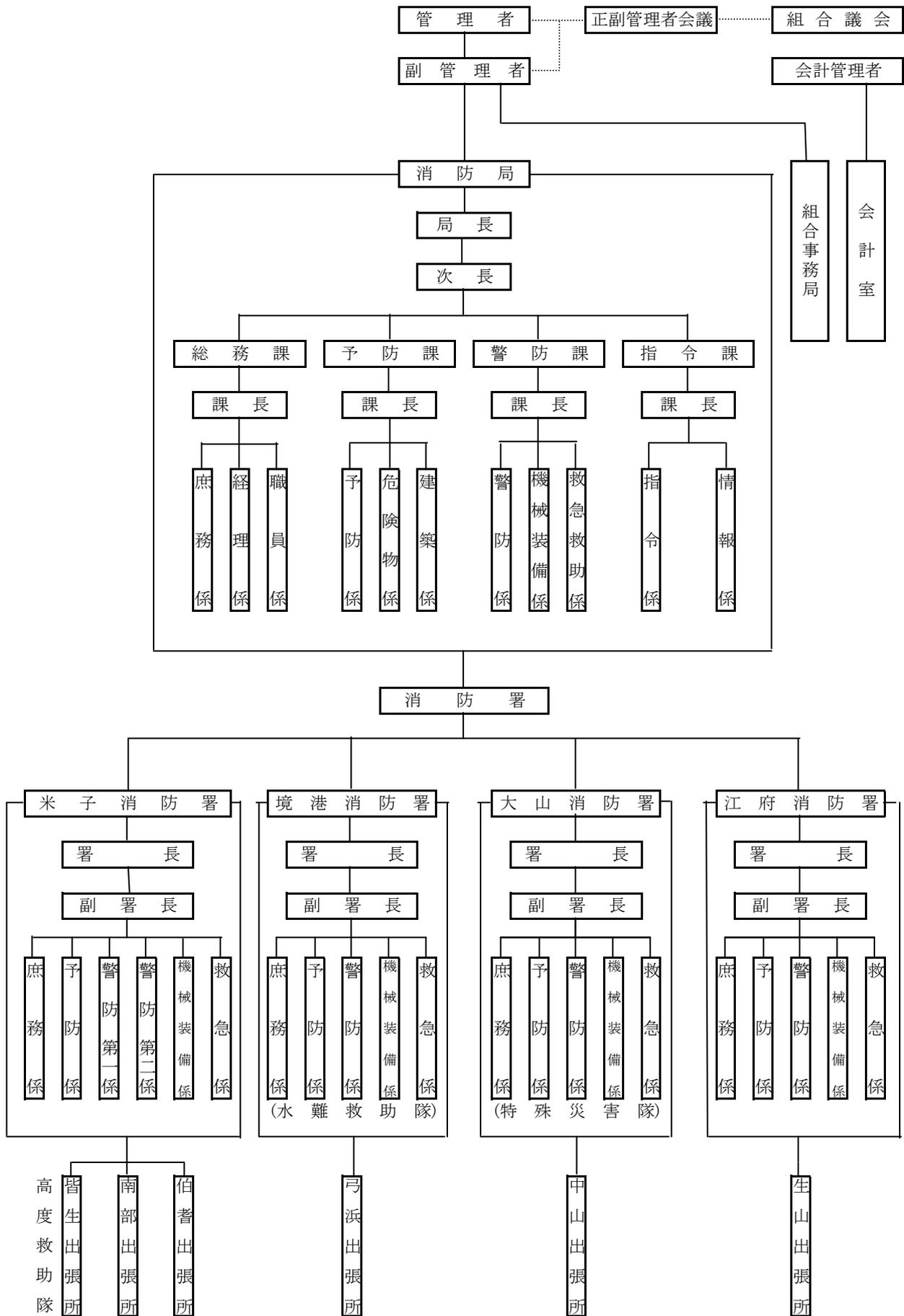
歴代議長

初代	足立六郎 (米子市) S47. 8.16～S50. 4.30
二代	田丸喜久治 (") S50. 7.28～S54. 4.30
三代	安達昭男 (") S54. 6. 2～S56. 6.29
四代	田村繁夫 (") S56.10.16～S57.12. 9
五代	福谷清 (") S58. 1.31～S58. 4.30
六代	広江弑 (") S58. 6.10～S59. 7.19
七代	国尾茂 (") S59.10. 8～S61. 7.17
八代	茅野恒治 (") S61. 9. 5～S62. 4.30
九代	種原敏彦 (") S62. 6.11～H元. 6.23
十代	塚田喜美 (") H元. 6.23～H 3. 4.30
十一代	福谷清 (") H 3. 6.13～H 5. 6.25
十二代	足芝孝幸 (") H 5.10.25～H 7. 4.30
十三代	間瀬庄作 (") H 7. 7.13～H11. 4.30
十四代	平田賢 (") H11. 7.29～H13. 6.22
十五代	中本実夫 (") H13. 7.12～H15. 4.30
十六代	生田薫 (") H15. 7.28～H17.3.30
十七代	生田薫 (") H17. 4.15～H18.6.30
十八代	吉岡知己 (") H18.7.20～ H20.7.10
十九代	中村昌哲 (") H20.7.25～ H22.6.30
二十代	渡辺照夫 (") H22.8.24～

歴代消防長・消防局長

初代消防長	名和義則 S51. 5. 2～S57. 3.31
第二代消防長	仲田末男 S57. 4. 1～S59. 6.30
第三代消防長	西田英二 S59. 7. 1～H元. 3.31
第四代消防長	岩佐弘志 H元. 4. 1～H 7. 3.31
第五代消防局長	石上洋二 H 7. 4. 1～H13. 3.31
第六代消防局長	清水隆 H13. 4. 1～H14. 3.31
第七代消防局長	廣谷耕史 H14. 4. 1～H17. 3.31
第八代消防局長	中田正男 H17. 4. 1～H20.3.31
第九代消防局長	浦木昇 H20. 4. 1～H22.3.31
第十代消防局長	桑名強 H22. 4. 1～

鳥取県西部広域行政管理組合消防局組織図



消防機関の出動状況

[平成21年中(平成21年1月1日～平成21年12月31日)]

区 分		種 別	計	火 災	救 急 業 務	救 助 活 動
			(ア)～(ス)	(ア)	(イ)	(ウ)
消・ 防署 局所	出 動 回 数		12,201	127	8,421	128
	出 動 延 人 員		45,491	1,596	26,744	1,842

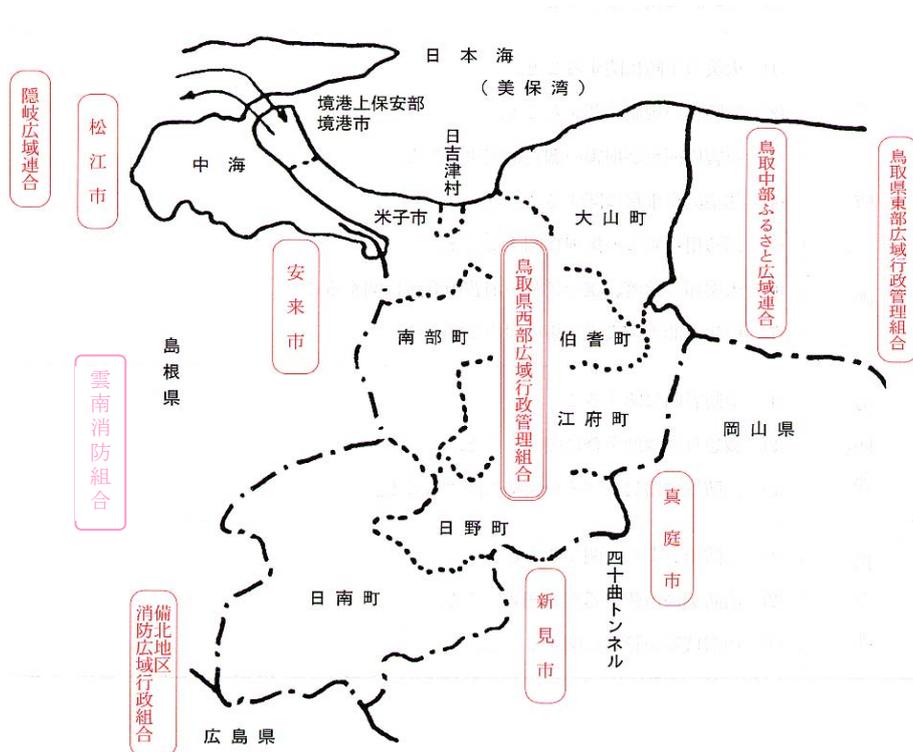
風水害等の災害 (エ)	演 習 訓 練 (オ)	訓 練 ・ 指 導 (カ)	警 防 調 査 (キ)	火 災 原 因 調 査 (ク)
0	20	317	1,200	100
0	150	1,444	4,869	660

特 別 警 戒 (ケ)	捜 索 (コ)	予 防 査 察 (サ)	誤 報 等 (シ)	そ の 他 (ス)
34	0	1,154	14	686
141	0	3,462	156	4,427

相互応援協定

平成22年4月1日現在

名 称	協 定 団 体	締結・改訂年月日
中海地区消防相互応援協定	松江市 (島根県) 安来市 (")	平成元年 4月 1日
隠岐島の救急業務の共同処理	松江市 (島根県) 出雲市 (") 隠岐広域連合 (")	平成14年 1月 1日 (改)
高速自動車国道中国横断自動車道岡山米子線における消防相互応援に関する協定	真庭市 (岡山県)	平成17年10月 1日 (改)
山陰道 (米子～安来) における消防相互応援に関する協定	安来市 (島根県)	平成10年 3月18日
鳥取県下広域消防相互応援協定	鳥取県東部広域行政管理組合 鳥取中部ふるさと広域連合	平成19年 4月30日 (改)
鳥取県西部広域行政管理組合と備北地区消防広域行政組合の消防相互応援協定	備北地区消防広域行政組合 (広島県)	平成12年 3月31日
消防相互応援に関する協定書	新見市 (岡山県) 真庭市 (")	平成17年10月 1日 (改)
	雲南消防組合 (島根県)	



事 務 分 掌

1. 消防局事務分掌

平成22年4月1日現在

	消 防 局 長	消 防 正 監	桑 名 強	
	次長兼総務課長		亀 尾 崇	
	予 防 課 長	消防司令長	舩 越 聡	
	次長兼警防課長	消 防 監	加 藤 雅 夫	
	次長兼指令課長	消 防 監	菅 野 靖 雄	
総 務 課	(1) 人事、給与、服務及び例規に関すること。 (2) 総合計画及び企画に関すること。 (3) 予算及び経理に関すること。 (4) 消防用財産に関すること。 (5) 職員の研修に関すること。 (6) 他の課に属さないこと。			
予 防 課	(1) 火災の予防に関すること。 (2) 危険物の規制に関すること。 (3) 火災原因及び損害の調査に関すること。 (4) 建築同意事務に関すること。 (5) 消防用設備等の指導に関すること。 (6) 火薬類の譲渡、譲受け及び消費の許可に関すること。 (7) 液化石油ガス設備工事の届出に関すること。			
警 防 課	(1) 消防計画に関すること。 (2) 救急及び救助業務に関すること。 (3) 消防機械器具及びその装備に関すること。			
指 令 課	(1) 消防指令業務に関すること。 (2) 消防関係情報の処理に関すること。 (3) 通信機器の管理に関すること。			

2. 消防署事務分掌

	次長兼米子消防署長 境港消防署長 大山消防署長 江府消防署長	消 防 監 消防司令長 消防司令長 消防司令長	武 本 和 之 大 谷 孝 志 生 田 和 彦 田 中 好 徳
庶務係	<ul style="list-style-type: none"> (1) 署内人事及び賞罰に関すること。 (2) 署員の教養訓練及び服務に関すること。 (3) 経理に関すること。 (4) 各種統計に関すること。 (5) 他の分掌に属さないこと。 		
予防係	<ul style="list-style-type: none"> (1) 災害の調査に関すること。 (2) 予防査察に関すること。 (3) 危険物の規制に関すること。 (4) 建築同意に関すること。 (5) 火災予防の啓発、宣伝に関すること。 (6) 火災原因及び損害の調査に関すること。 (7) 液化石油ガス設備工事の届出に関すること。 		
警米防第一係署	<ul style="list-style-type: none"> (1) 水火災の警戒、防ぎよに関すること。 (2) 水火災の警防計画に関すること。 (3) 消防訓練の実施に関すること。 (4) 災害の情報の処理に関すること。 (5) 救助業務に関すること。 		
警米防第二係署	<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防用地理、水利の点検及び調査に関すること。 (2) 消防用器具の維持管理に関すること。 (3) 水火災その他災害情報連絡及び消防通信に関すること。 		

警 境 港 署 ・ 大 防 山 署 ・ 江 府 係 署	<ul style="list-style-type: none"> (1) 水火災の警戒、防ぎよに関する事。 (2) 水火災の警防計画及び訓練の実施に関する事。 (3) 消防用地理、水利の点検及び調査に関する事。 (4) 消防用器具の維持管理に関する事。 (5) 水火災その他災害情報連絡及び消防通信に関する事。 (6) 救助業務に関する事。
装 機 備 係	<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防機械に関する教養及び訓練に関する事。 (2) 消防機械の整備、保全及び検査に関する事。
救 急 係	<ul style="list-style-type: none"> (1) 救急隊業務に関する事。 (2) 救急指定医療機関との連携調整に関する事。 (3) 救急統計、報告等に関する事。

3. 出張所事務分掌

<ul style="list-style-type: none"> (1) 火災その他災害防ぎよに関する事。 (2) 文書の收受、発送及び記録の整備保全に関する事。 (3) 庁舎の維持管理及び諸物品の保管に関する事。 (4) 所属職員の教養訓練に関する事。 (5) 予防査察に関する事。 (6) 火災予防条例による届出に基づく調査指導に関する事。 (7) 火災予防の啓発、宣伝に関する事。 (8) 火災原因及び損害の調査に関する事。 (9) 消防用地理、水利の点検及び調査に関する事。 (10) 消防用器具及び消防機械の整備保全に関する事。 (11) 水火災その他災害情報連絡及び消防通信に関する事。 (12) 救急業務に関する事。 (13) 救助業務に関する事。 (14) その他出張所に関する事。

消 防 職 員

(1-1)職員配置状況

平成22年4月1日現在

区 分	条 例 定 員	実 員	消 防 正 監	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	事 務 職 員
昭51. 5. 1	143	112		1	4	5	14	30	7	48	3
昭51. 7. 1	143	143		1	4	5	14	30	7	79	3
昭52. 4. 1	208	206	1	2	2	3	18	40	5	132	3
昭53. 4. 1	208	207	1	2	2	4	25	43	7	120	3
昭54. 4. 1	220	220	1	1	3	5	25	50	5	127	3
昭55. 4. 1	232	232	1	2	2	10	22	50	16	126	3
昭56. 4. 1	242	242	1	2	3	8	22	48	16	140	2
昭57. 4. 1	246	246	1		7	8	23	53	11	141	2
昭58. 7. 1	246	246	1	2	5	9	31	48	31	117	2
昭59. 7. 1	246	246	1	2	6	9	30	51	28	117	2
昭60. 7. 1	246	245	1	1	7	9	30	52	28	115	2
昭61. 3. 31	246	245	1	1	7	6	32	52	28	116	2
昭62. 3. 31	246	245	1	1	7	7	31	52	28	116	2
昭63. 3. 31	246	245	1	2	6	7	33	51	28	115	2
平元. 4. 1	253	253	1	2	6	7	33	52	28	112	2
平 2. 4. 1	258	258	1	2	6	7	36	57	32	115	2
平 3. 4. 1	262	262	1	2	6	11	38	59	33	110	2
平 4. 4. 1	264	264	1	2	6	11	43	63	33	103	2
平 5. 4. 1	277	277	1	2	6	13	48	63	43	99	2
平 6. 4. 1	284	284	1	1	7	14	49	66	53	91	2
平 7. 4. 1	284	284	1	2	8	12	54	67	55	83	2
平 8. 4. 1	287	284	1	2	8	12	60	71	53	75	2
平 9. 4. 1	287	287	1	2	8	12	63	72	53	74	2
平10. 4. 1	287	287	1	2	8	12	64	74	56	68	2
平11. 4. 1	287	287	1	2	8	12	64	74	56	68	2
平12. 4. 1	287	286	1	2	8	13	63	74	56	67	2
平13. 4. 1	287	287	1	2	8	14	63	74	57	66	2
平14. 4. 1	287	287	1	2	8	15	63	82	51	63	2
平15. 4. 1	287	287	1	2	8	15	64	91	38	66	2
平16. 4. 1	287	287	1	2	9	33	59	91	37	53	2
平17. 4. 1	292	290	1	3	11	38	63	90	36	46	3
平18. 4. 1	292	291	1	2	12	47	72	91	29	34	3
平19. 4. 1	292	292	1	2	14	45	77	89	28	33	3
平20. 4. 1	292	292	1	2	14	47	78	89	27	31	3
平21. 4. 1	292	292	1	5	11	49	77	110	3	34	2
平22. 4. 1	304	303	1	3	14	54	79	113	11	26	2

(1-2)職員配置状況

平成22年4月1日

		実 員	消防 正 監	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	事務 吏員
消防局	消防局長	1	1								
	次 長	4		3							1
	総務課	21			2	2	1	1		14	1(1)
	予防課	7			1	2		4			
	警防課	5		(1)	1	3	1				
	指令課	15		(1)		7	4	4			
	派遣中の者	3				1		2			
米子消防署	本 署	51		(1)	2	7	15	17	3	7	
	皆生出張所	27			1	3	2	19	1	1	
	南部出張所	14				2	6	5	1		
	伯耆出張所	14				2	6	6			
境港消防署	本 署	42			3	7	10	13	5	4	
	弓浜出張所	14				2	6	6			
大山消防署	本 署	28			2	5	10	11			
	中山出張所	14				2	4	8			
江府消防署	本 署	29			2	7	8	11	1		
	生山出張所	14				2	6	6			
合 計		303	1	3	14	54	79	113	11	26	2

() は兼務

消防局管理職

消 防 局 長	消 防 正 監	桑 名 強
局 次 長 兼 総 務 課 長		亀 尾 崇
予 防 課 長	消 防 司 令 長	船 越 聡
局 次 長 兼 警 防 課 長	消 防 監	加 藤 雅 夫
局 次 長 兼 指 令 課 長	消 防 監	菅 野 靖 雄
局 主 査 兼 総 務 課 経 理 係 長	消 防 司 令 長	船 越 眞
局 主 査 兼 総 務 課 職 員 係 長	消 防 司 令 長	杉 村 正 男
局 主 査 兼 警 防 課 救 急 救 助 係 長	消 防 司 令 長	足 立 三 紀
局 次 長 兼 米 子 消 防 署 長	消 防 監	武 本 和 之
局 主 査 兼 米 子 消 防 署 副 署 長	消 防 司 令 長	木 山 文 也
局 主 査 兼 米 子 消 防 署 副 署 長	消 防 司 令 長	村 上 浩
局 主 査 兼 米 子 消 防 署 皆 生 出 張 所 長	消 防 司 令 長	竹 田 新 太 郎
境 港 消 防 署 長	消 防 司 令 長	大 谷 孝 志
局 主 査 兼 境 港 消 防 署 副 署 長	消 防 司 令 長	三 原 忠 宏
局 主 査 兼 境 港 消 防 署 副 署 長	消 防 司 令 長	景 山 庄
大 山 消 防 署 長	消 防 司 令 長	生 田 和 彦
局 主 査 兼 大 山 消 防 署 副 署 長	消 防 司 令 長	前 田 由 夫
江 府 消 防 署 長	消 防 司 令 長	田 中 好 徳
局 主 査 兼 江 府 消 防 署 副 署 長	消 防 司 令 長	森 脇 敏 夫

(2)職員在職年数

平成22年4月1日

	計	消防 正監	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	事務 吏員
人数	303	1	3	14	54	79	113	11	26	2
平均年数	24	33	37	35	33	31	20	5	1	1
1年未満	14								14	
1年	7								5	2
2年	3								3	
3年	2								2	
4年	2								2	
5年	8							8		
6年	1							1		
7年	3						1	2		
8年	3						3			
9年	7						7			
10年										
11年	1						1			
12年	1						1			
13年	5						5			
14年										
15年	3						3			
16年	11						11			
17年	14						14			
18年	4						4			
19年	11					1	10			
20年	6					1	5			
21年	10						10			
22年	3						3			
23年	5					1	4			
24年	4						4			
25年	5				1	1	3			
26年	4				1	1	2			
27年	3						3			
28年	12				1	4	7			
29年	10				2	5	3			
30年	13				3	7	3			
31年	14				1	13				
32年	4					4				
33年	91	1		5	38	41	6			
34年	10			5	5					
35年										
36年										
37年	5		2	1	2					
38年	4		1	3						
39年										
40年										
41年										
42年										
43年										
44年										
45年										

(3)職員年齢構成

平成22年4月1日

	計	消防 正監	消防監	消防 司令長	消防 司令	消防 司令補	消防 士長	消防 副士長	消防士	事務 吏員	年齢 合計
人数	303	1	3	14	54	79	113	11	26	2	
平均年齢	44.9	57.0	55.3	55.2	54.1	52.1	40.1	28.1	24.0	51.0	
18歳未満											
18歳											
19歳											
20歳	5								5		100
21歳	2								2		42
22歳	4								4		88
23歳	2								2		46
24歳	3							2	1		72
25歳	4								4		100
26歳	1								1		26
27歳	4						1	1	2		108
28歳	6							3	3		168
29歳	4						1	3			116
30歳	4						3		1		120
31歳	5						3	1	1		155
32歳	5						4	1			160
33歳	3						3				99
34歳	6						6				204
35歳	12						12				420
36歳	6						6				216
37歳	12					1	11				444
38歳	7						7				266
39歳	8						8				312
40歳	5						5				200
41歳	6						6				246
42歳	3					1	2				126
43歳	3					1	2				129
44歳	2						2				88
45歳	5				1		4				225
46歳	6					1	4			1	276
47歳	6				1	2	3				282
48歳	8				4	3	1				384
49歳	8					6	2				392
50歳	8					5	3				400
51歳	24				5	14	5				1,224
52歳	15			1	3	8	3				780
53歳	15			2	6	6	1				795
54歳	19			1	7	10	1				1,026
55歳	22		2	3	7	7	3				1,210
56歳	25		1	5	9	9				1	1,400
57歳	8	1			4	2	1				456
58歳	6			2	1	3					348
59歳	6				6						354
60歳											

イ. 局内教養研修及び訓練

平成22年3月31日現在

研 修 内 容	研 修 回 数	延 人 員
予 防 研 修	14	112
警 防 研 修 及 び 訓 練	66	440
救 助 研 修 及 び 訓 練	139	1743
水 難 救 助 研 修 及 び 訓 練	4	24
救 急 研 修 及 び 訓 練	78	1002
一 般 教 養 研 修	20	301
計	321	3622

- 日本臨床救急医学会 5名
- 日本救急医学会中国四国地方会 1名
- 日本集団災害医学会 2名
- 全国救急隊員シンポジウム 20名
- 山陰救急医学会 17名

(5)職員採用試験(平成22年4月1日採用)

第 1 次	教 養 試 験 適 性 検 査 体 力 試 験	} 平成 21 年 10 月 18 日	消 防 局 鳥 取 県 消 防 学 校
第 2 次	作 文 試 験 面 接 試 験	} 平成 21 年 11 月 28 日	消 防 局

	総 数	高 校 卒	短 大 卒	大 学 卒
応 募 者	140	50	28	63
合 格 者	14	6	5	3

消防予算の状況



消 防 予 算 の 状 況

(1) 平成22年度当初予算額の対前年度比較

(単位:千円)

科	目	平成22年度予算	平成21年度予算	比 較 増 減
(款) 消 防 費		2,968,971	2,857,257	111,714
(項) 消 防 費		2,968,971	2,857,257	111,714
(目) 1 常備消防費		2,823,511	2,707,551	115,960
(節) 1 報	酬	1,620	1,620	0
2 給	料	1,265,090	1,244,432	20,658
3 職 員 手 当 等		865,432	818,148	47,284
4 共 済 費		406,774	362,873	43,901
5 災 害 補 償 費		10	10	0
7 賃 金		0	0	0
8 報 償 費		402	500	△ 98
9 旅 費		2,023	2,277	△ 254
10 交 際 費		10	10	0
11 需 用 費		92,875	96,619	△ 3,744
12 役 務 費		29,111	24,918	4,193
13 委 託 料		51,330	45,130	6,200
14 使 用 料 及 び 貸 借 料		11,350	13,118	△ 1,768
16 原 材 料 費		180	180	0
18 備 品 購 入 費		1,383	900	483
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金		15,488	15,301	187
22 補 償 補 填 及 び 賠 償 費		350	300	50
25 積 立 金		76,483	78,348	△ 1,865
27 公 課 費		3,600	2,867	733
(目) 2 消防施設費		145,460	149,706	△ 4,246
(節) 11 需 用 費		41,161	14,390	26,771
13 委 託 料		0	28,851	△ 28,851
15 工 事 請 負 費		5,762	9,051	△ 3,289
18 備 品 購 入 費		96,365	95,218	1,147
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金		2,172	2,196	△ 24

(2) 平成22年度当初予算額の財源内訳

(単位:千円)

区 分 科 目	予 算 額	財 源 内 訳			
		特定財源			一般財源
		国・県支出金	地 方 債	そ の 他	
(款) 消 防 費	2,968,971	33,896	86,400	166,149	2,682,526
(項) 消 防 費	2,968,971	33,896	86,400	166,149	2,682,526
(目) 常備消防費	2,823,511	6,765	0	164,478	2,652,268
(目) 消防施設費	145,460	27,131	86,400	1,671	30,258

(3) 平成21年度決算額

(単位:円)

科 目	当初予算額	予算現額	決算見込額
(款) 消 防 費	2,857,257,000	2,898,292,000	2,888,983,539
(項) 消 防 費	2,857,257,000	2,898,292,000	2,888,983,539
(目) 1 常備消防費	2,707,551,000	2,756,174,000	2,748,381,223
(節) 1 報 酬	1,620,000	1,620,000	1,620,000
2 給 料	1,244,432,000	1,241,977,000	1,241,658,976
3 職 員 手 当 等	818,148,000	805,032,000	802,221,202
4 共 済 費	362,873,000	398,636,000	398,068,539
5 災 害 補 償 費	10,000	10,000	0
7 賃 金	0	0	0
8 報 償 費	500,000	410,000	295,600
9 旅 費	2,277,000	2,350,000	2,309,810
10 交 際 費	10,000	10,000	0
11 需 用 費	96,619,000	100,347,000	97,298,485
12 役 務 費	24,918,000	25,842,000	25,786,391
13 委 託 料	45,130,000	44,300,000	44,263,210
14 使 用 料 及 び 貸 借 料	13,118,000	13,099,000	13,067,873
16 原 材 料 費	180,000	180,000	114,092
18 備 品 購 入 費	900,000	900,000	843,175
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	15,301,000	15,107,000	14,917,670
22 補 償 補 填 及 び 賠 償 費	300,000	300,000	0
25 積 立 金	78,348,000	103,187,000	103,187,000
27 公 課 費	2,867,000	2,867,000	2,729,200
(目) 2 消防施設費	149,706,000	142,118,000	140,602,316
(節) 11 需 用 費	14,390,000	18,352,000	17,293,709
13 委 託 料	28,851,000	23,205,000	23,205,000
15 工 事 請 負 費	9,051,000	13,249,000	13,248,900
18 備 品 購 入 費	95,218,000	85,116,000	84,809,644
19 負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	2,196,000	2,196,000	2,045,063

消 防 施 設



消 防 施 設

(1) 消防庁舎の位置・構造

平成22年4月1日現在

名 称	所 在 地	構 造	建物延面積	敷地面積
消 防 局		鉄骨鉄筋コンクリート造6階建	3,972.30	
主 訓 練 塔	米子市両三柳5452番地	鉄骨鉄筋コンクリート造7階建	637.00	6,865.23
副 訓 練 塔		鉄骨造2階建	141.00	
米 子 消 防 署	米子市富士見町 1丁目103番地1	鉄筋コンクリート造3階建	2,305.35	2,211.85
米 子 消 防 署 皆 生 出 張 所	米子市皆生5丁目 8番5号	鉄筋コンクリート造平屋建	489.08	1,015.04
米 子 消 防 署 南 部 出 張 所	西伯郡南部町 清水川3番地1	〃	285.81	749.18
米 子 消 防 署 伯 耆 出 張 所	西伯郡伯耆町 溝口20番地4	〃	281.67	900.96
境 港 消 防 署	境港市中野町2116番地	鉄筋コンクリート造2階建	1,565.70	5,560.00
境 港 消 防 署 弓 浜 出 張 所	米子市大篠津町 2913番地1	鉄筋コンクリート造平屋建 鉄骨造平屋建（自動車庫）	199.88 52.00	746.00
大 山 消 防 署	西伯郡大山町 末吉403番地2	鉄筋コンクリート造平屋建 鉄骨造2階建	503.50	1,884.87
大 山 消 防 署 中 山 出 張 所	西伯郡大山町長野 880番地3	鉄筋コンクリート造平屋建 （一部鉄骨造）	330.29	1,136.38
江 府 消 防 署	日野郡江府町大字 武庫1390番地3	鉄筋コンクリート造 鉄骨造2階建	513.66	1,051.00
江 府 消 防 署 生 山 出 張 所	日野郡日南町 生山349番地1	鉄筋コンクリート造平屋建	229.70	782.20
古 峠 山 無 線 中 継 所	西伯郡伯耆町二部字 間地山2143番地1	鉄骨造平屋建鉄板章 付属設備（送受信塔）鉄骨造 16.5m	28.73	100.00
日 南 前 進 基 地	日野郡日南町萩原字 原林490番地2	鉄骨造平屋建ALC版 付属設備（送受信塔）鉄骨造 15m	6.18	25.00

(2) 消防吏員待機宿舎概要

名 称	所 在 地	構 造	建物延面積	敷地面積
生山北寮（独身寮） 消防待機宿舎北寮	日野郡日南町 生山349番地	鉄筋コンクリート造平屋建	107.00	365.14
生山南寮（世帯寮） 消防待機宿舎南寮	日野郡日南町 生山454番地	鉄筋コンクリート造平屋建 （3世帯）	147.00	380.58

(3)消防車輛等配置数

平成22年4月1日現在

推 移	車 種 別			総 数	消 防 ホ ン プ 自 動 車	水 槽 付 消 防 ポ ン プ 自 動 車	化 学 消 防 自 動 車	は し ご 付 消 防 自 動 車	救 助 工 作 車	高 発 泡 車	救 急 自 動 車 (2 B)	救 急 自 動 車 (高 規 格)	指 揮 車	査 察 ・ 広 報 車	作 業 車	消 防 艇	電 源 ・ 照 明 車	資 機 材 搬 送 車	そ の 他 車 輛
	昭	平	元																
昭 51.	5.	1	23	8	3	2	1				5		1	2	1				
昭 51.	10.	1	28	10	3	2	1				6		2	3	1				
昭 52.	4.	1	36	15	3	2	2				7		2	4	1				
昭 54.	4.	1	51	21	4	3	2	1			8		2	9	1				
昭 57.	4.	1	58	21	4	3	2	2			10		2	13	1				
昭 62.	4.	1	56	19	4	2	2	2			11		3	12	1				
昭 63.	4.	1	59	19	4	2	2	2			11		5	10	1		1	1	1
平 元.	4.	1	60	20	4	2	2	2			11		5	10	1		1	1	1
平 2.	4.	1	61	20	4	2	2	2			12		5	10	1		1	1	1
平 3.	4.	1	67	21	4	2	2	2			12		5	15	1		1	1	1
平 4.	4.	1	68	21	4	3	2	2			12		5	16	1		1		1
平 5.	4.	1	70	21	4	3	2	2			12	1	5	17	1		1		1
平 6.	4.	1	72	21	4	3	2	2			12	1	5	19	1		1		1
平 7.	4.	1	75	21	4	3	2	2			12	2	5	21	1		1		1
平 8.	4.	1	76	21	4	3	2	3			12	2	5	21	1		1		1
平 9.	4.	1	78	21	4	3	3	3			12	2	5	22	1		1		1
平 10.	4.	1	80	21	4	3	3	3			11	3	5	22	1		1	1	2
平 11.	4.	1	80	21	4	3	3	3			10	4	5	21	1		1	1	3
平 12.	4.	1	81	21	4	3	3	3			9	5	5	22	1		1	1	3
平 13.	4.	1	81	21	4	3	3	3			9	5	5	21	1		1	1	4
平 14.	4.	1	81	21	4	3	3	3			9	5	5	21	1		1	1	4
平 15.	4.	1	81	21	4	3	3	3			9	5	5	21	1		1	1	4
平 16.	4.	1	81	21	4	3	3	3			7	7	5	21	1		1	1	4
平 17.	4.	1	81	21	4	3	3	3			5	9	5	21	1		1	1	4
平 18.	4.	1	81	21	5	3	3	3			3	11	5	21	1		1	1	4
平 19.	4.	1	82	20	6	3	3	3			2	12	5	21	1		1	1	4
平 20.	4.	1	78	18	6	3	3	3			1	13	5	21	1			1	3
平 21.	4.	1	78	18	6	3	3	3				14	5	21	1			1	3
平 22.	4.	1	78	18	6	3	3	3				14	5	21	1			1	3

平成 22 ・ 4 ・ 1	消 防 局		13								2	1	7	1					2	
	米消 防 子署	本 署	15	4	1	1	1					2	1	4					1	
		皆生出張所	6	1	1		1	1				1		1						
		南部出張所	4	2								1		1						
		伯耆出張所	4	1	1							1		1						
	境消 防 港署	本 署	13	2	1	2	1	1				2	1	2						1
		弓浜出張所	4	2								1		1						
	大消 防 山署	本 署	5	1	1							1	1	1						
		中山出張所	4	2								1		1						
	江消 防 府署	本 署	6	1	1			1				1	1	1						
		生山出張所	4	2								1		1						
	計			78	18	6	3	3	3	0	0	14	5	21	1	0	0	1	3	3

(4) 消防車両概況

平成 22 年 4 月 1 日 現在

所属	車 号	登 録 番 号	車 名	機 装	購入年月日	摘 要
消防局	局 救 急 1 号 車	鳥取88に3544	トヨタ	高規格車 4WD	平成 9. 9. 18	消防庁補助
	局 救 急 2 号 車	鳥取800さ 763	トヨタ	高規格車 4WD	平成12. 3. 23	寄贈 損害保険協会
	局 指 揮 車	鳥取800さ4412	ニッサン		平成19. 3. 29	
	広 報 1 号 車	鳥取88す 988	ニッサン		平成 5. 8. 30	寄贈 日本消防協会
	広 報 2 号 車	鳥取45せ3407	マツダ		平成 6. 5. 26	
	広 報 3 号 車	鳥取500ね325	ニッサン		平成18. 11. 24	寄贈 米子危保協会
	局 査 察 1 号 車	鳥取40ほ8367	ホンダ		平成 3. 7. 12	
	局 査 察 2 号 車	鳥取40む2123	三菱		平成 5. 5. 24	
	局 査 察 3 号 車	鳥取40む2124	三菱		平成 5. 5. 24	
	局 査 察 5 号 車	鳥取40め3583	スズキ		平成 6. 5. 10	
	訓 練 指 導 車	鳥取88に3510	マツダ	消火通報指導車	平成 9. 8. 20	寄贈 日本宝くじ協会
	連 絡 車	鳥取300た1821	ニッサン		平成16. 5. 27	
	作 業 車	鳥取45さ7145	トヨタ	1.5t	平成元. 11. 2	
米子消防署	1 号 車	鳥取800さ 654	三菱	CD-I・A2	平成12. 1. 24	消防庁補助
	2 号 車	鳥取88に4492	いすゞ	CD-I・A2	平成11. 1. 25	消防庁補助
	3 号 車	鳥取88に2581	三菱	CD-I・A2	平成 8. 1. 22	消防庁補助
	5 号 車	鳥取88に3128	三菱	CD-I・A2	平成 9. 1. 31	消防庁補助
	タ ン ク 車	鳥 88に4491	日野	I-A	平成11. 1. 25	消防庁補助
	化 学 車	鳥取800は387	日野	II型	平成19. 12. 14	
	梯 子 車	鳥取800は110	ニッサン	40m級	平成13. 3. 16	消防庁補助
	救 急 1 号 車	鳥取800さ3901	トヨタ	高規格車 4WD	平成17. 11. 20	
	救 急 2 号 車	鳥取800さ5065	トヨタ	高規格車 4WD	平成21. 2. 19	
	指 揮 車	鳥取88に4603	トヨタ		平成11. 3. 10	
皆生出張所	資 材 搬 送 車	鳥取88に3730	三菱	2t	平成 9. 12. 25	
	米子広報1号車	鳥取800さ2987	ニッサン		平成15. 10. 15	
	米子広報2号車	鳥取88に1311	トヨタ		平成 4. 9. 16	寄贈 日本防火協会
	米子査察1号車	鳥取40ほ8366	ホンダ		平成 3. 7. 12	
	米子査察2号車	鳥取40め3582	スズキ		平成 6. 5. 10	
	1 号 車	鳥取800さ5365	三菱		平成22. 2. 15	
	タ ン ク 車	鳥 800さ2061	日野	I-B	平成14. 1. 31	寄贈 日本消防協会
	救 助 工 作 車	鳥取88ゆ 637	日野	III型	平成 8. 3. 28	消防庁補助
南部出張所	梯 子 車	鳥取88に 476	三菱	15m級	平成元. 10. 26	消防庁補助
	救 急 車	鳥取800さ3939	トヨタ	高規格車 4WD	平成17. 12. 21	寄贈 損害保険協会
	広 報 車	鳥取800さ2543	ニッサン		平成14. 12. 20	
	1 号 車	鳥取88に1778	三菱	CD-I・A2	平成 6. 1. 26	消防庁補助
	2 号 車	鳥取88に3129	三菱	CD-I・A2	平成 9. 1. 31	消防庁補助
救 急 車	鳥取800さ3041	ニッサン	高規格車 4WD	平成15. 11. 17	消防庁補助	
広 報 車	鳥取88す 969	マツダ		平成 5. 6. 3		

所属	車 号	登 録 番 号	車 名	機 装	購 入 年 月 日	摘 要
伯耆出張所	1 号 車	鳥取88に2157	三菱	CD-I・A2	平成 7. 2. 10	消防庁補助
	タンク車	鳥取800は 292	日野	I-A	平成18. 2. 28	消防庁補助
	救急車	鳥取800さ3508	トヨタ	高規格車 4WD	平成16. 11. 29	消防庁補助
	広報車	鳥取88す 968	マツダ		平成 5. 6. 3	
境港消防署	1 号 車	鳥取800さ3555	日野	CD-I・A2	平成17. 1. 12	消防庁補助
	2 号 車	鳥取88に4493	いすゞ	CD-I・A2	平成11. 1. 25	消防庁補助
	タンク車	鳥取800さ 656	日野	I-B	平成12. 1. 24	消防庁補助
	救助工作車	鳥取800は 51	日野	II型	平成12. 2. 21	防衛庁補助
	ボートトレーラ	鳥取800る 15	イージーホーラー		平成12. 2. 21	防衛庁補助
	化学1号車	鳥取88は107	日野	IV型・A1	平成13. 2. 28	防衛庁補助
	化学2号車	鳥取88に 914	三菱	I型・A1	平成 3. 4. 24	寄贈 損害保険協会
	梯子車	鳥取88ゆ 689	日野	25m級	平成 8. 12. 19	防衛庁補助
	救急1号車	鳥取800さ5432	ニッサン	高規格車 4WD	平成22. 3. 26	防衛省補助
	救急2号車	鳥取800さ4415	ニッサン	高規格車4WD	平成19. 3. 27	防衛庁補助
弓浜出張所	指揮車	鳥取800さ2633	ニッサン		平成15. 3. 20	
	境港広報車	鳥取880あ95	ダイハツ		平成18. 8. 7	
	境港査察車	鳥取80あ653	ダイハツ		平成 8. 12. 25	
	1 号 車	鳥取88に2215	三菱	CD-I・A2	平成 7. 3. 27	防衛庁補助
大山消防署	2 号 車	鳥取88に1777	三菱	CD-I・A2	平成 6. 1. 26	消防庁補助
	救急車	鳥取800さ3595	トヨタ	高規格車 4WD	平成17. 2. 23	防衛庁補助
	広報車	鳥取88す1119	マツダ		平成 6. 5. 25	
	1 号 車	鳥取88に2580	三菱	CD-I・A2	平成 8. 1. 22	消防庁補助
	タンク車	鳥取800は 337	日野	CD-I・A2	平成19. 2. 23	
中山出張所	救急車	鳥取800さ4747	ニッサン	高規格車 4WD	平成20. 1. 31	
	指揮車	鳥取800さ3175	ニッサン		平成16. 3. 17	
	広報車	鳥取800さ2988	ニッサン		平成15. 10. 15	
	1 号 車	鳥取88に1099	三菱	CD-I・A2	平成 4. 1. 10	消防庁補助
江府消防署	2 号 車	鳥取88に3638	三菱	CD-I・A2	平成 9. 11. 7	消防庁補助
	救急車	鳥取800さ1844	ニッサン	高規格車 4WD	平成13. 11. 19	消防庁補助
	広報車	鳥取80あ1132	ダイハツ		平成16. 3. 5	
	1 号 車	鳥取88に2579	三菱	CD-I・A2	平成 8. 1. 22	消防庁補助
	タンク車	鳥取88に3633	日野	I-B	平成 9. 11. 7	消防庁補助
	救助工作車	鳥取800さ2568	日野	II型	平成15. 3. 20	消防庁補助
生山出張所	救急車	鳥取800さ5350	トヨタ	高規格車 4WD	平成22. 1. 26	消防庁補助
	指揮車	鳥取800さ3174	ニッサン		平成16. 3. 17	
	江府査察車	鳥取40ほ2022	三菱		平成 3. 2. 22	
生山出張所	1 号 車	鳥取88に2668	三菱	CD-I・A2	平成 8. 3. 26	消防庁補助
	2 号 車	鳥取800さ5044	日野	CD-I・A2	平成21. 1. 28	消防庁補助
	救急車	鳥取880さ1286	トヨタ	高規格車 4WD	平成13. 1. 15	消防庁補助
	広報車	鳥取80あ1133	ダイハツ		平成16. 3. 5	

消防ポンプ自動車18 タンク車6 救助工作車3 化学車3 梯子車3

救急車14 指揮車5 広報車13 査察車8 作業車1

訓練指導車1 資機材搬送車1 連絡車1 ボートトレーラー1

総数78台

(5) 救急・救助

平成22年4月1日現在

(5-1) 救急隊配置場所

配置場所	車両区分	隊数
米子消防署	高規格救急車	2隊
皆生出張所	高規格救急車	1隊
南部出張所	高規格救急車	1隊
伯耆出張所	高規格救急車	1隊
境港消防署	高規格救急車	2隊
弓浜出張所	高規格救急車	1隊
大山消防署	高規格救急車	1隊
中山出張所	高規格救急車	1隊
江府消防署	高規格救急車	1隊
生山出張所	高規格救急車	1隊

(5-2)高規格救急車積載一覧

積載器具名	数量	積載器具名	数量	
心電図伝送装置	1式	ま くら	1	
半自動式除細動器	1式	ドーナツ型まくら	1	
ベッドサイドモニター	1式	感染防止用資材セット	3式	
自動式人工呼吸器	1式	舌 庄 子	3	
輸液ポンプ	1式	舌 鉗 子	1	
心電計	1式	マギール鉗子	大・小 各 1	
全身固定用具	1式	ステイッフネック	大・中・小 各 1	
在宅医療セット	1式	万能ハサミ	2	
頭部固定具	1式	フェイスマスク	大・中・小 各 2	
新生児用資器材	1式	輸液セット	三方活栓付チューブ 4	
携帯電話	1	乳酸リンゲル液	5	
携帯無線機	1	留置針	18・20・22 適量	
電動吸引器	1式	経口エアウェイ	大・中・小・極小 各 1	
バキュームスプリント	1式	経鼻エアウェイ	6・7・8・9 適量	
マジックギプスセット	1式	鼻カニューレ	1	
バッグマスクセット	1式	クリーンネット	1	
喉頭鏡セット	1式	洗面器	1	
メインストレッチャー	1	尿器	1	
スクープストレッチャー	1	開口器	1	
サブストレッチャー	1	吸引カテーテル	適量	
ユニオン担架	1	おはり箱	1	
布担架	1	洗眼器	1	
酸素ボンベ	10リットル	2	気管内挿管チューブ	4・5・7・8・9 適量
減圧弁	2	2	気管切開カニューレ	適量
酸素加湿流量計	二連	1	マスク	適量
血圧計	アネロイド・ハンド式	各 1	ピンセット	1
聴診器		3	スタイレット	4
温・冷蔵庫		1	プラスチックグローブ	適量
浮環		1	手術用手袋	適量
グライスマスター		1	ディスプレイ電極	心電計用 適量
万能斧		1	三角布	適量
レスキューン		1	ハイゼガーゼ	適量
バール		1	ケーパイン	適量
サーチライト		4	各種テープ	適量
水中めがね		2	紙マスク	適量
トリアージタグ		適量	消毒綿	適量
毛布		2	シーネ	大・中・小 各 1
コンピチューブ		適量	砂のう	3
酸素マスク		適量	固定用ベルト	2
救急シート		1	シリンジ	10・20・30mm 各 1
雨覆いシート		1	冷却パック	2
駆血帯		3	患者搬送記録・搬送証	適量
止血帯	ケース入	1	救命処置記録票	適量
体温計		1	住宅地図	1式

(5-3)救助隊配置場所

平成22年4月1日現在

配置場所	隊区分	車両区分
米子消防署	救助隊	化学消防自動車(Ⅱ型)
境港消防署	救助隊兼水難救助隊	救助工作車(Ⅱ型)
大山消防署	救助隊兼特殊災害隊	水槽付消防自動車
江府消防署	救助隊	救助工作車(Ⅱ型)
皆生出張所	高度救助隊	救助工作車(Ⅲ型)

(5-4)高度救助用資機材一覧

機材名	規格
画像探索機Ⅰ型	MVS29-7600(一式)
画像探索機Ⅱ型	スワットカム・モデル10(二式)
地中音響探知機	TPL310B(ワンボックスタイプ)(一式)
熱画像直視装置	EEV-P4438型(一式)
夜間用暗視装置	スタビスコープ S-1240(一式)
地震警報機	サクラ Qアラート マークⅡ(一式)

(5-5)救助工作車(Ⅲ型)積載一覧表

積載器具名		数量	積載器具名		数量
三連梯子	8.7m	1	酸素濃度測定器		1
かぎ付単梯子	3.1m	1	有毒ガス測定器		1
ワイヤー梯子	1.1m	1	可燃性ガス測定器		1
耐電衣	ヘルメット・手袋	5組	サバイバースリング	スーパカラビナ付	2
救助用三脚		1式	エスケープ		2
鉄筋カッター	充電式	1	マット型空気ジャッキ	60・40・24t他	1式
SOS		1式	小型マット型空気ジャッキ		1式
ストライカー		1	ツインプーリー	カラビナ	2
空気呼吸器	レスクマスク付	3	ワイドプーリー		4
予備ボンベ	8L	14	エイト環		5
チルホール	ワイヤー10・20m	1式	カラビナ		20
エアラインマスク		2式	スーパーカラビナ		10
発電機	EF2300	1	エッジプロテクター		2
ワイヤーロープ	10・7・5・3m	8	安全帯		10
滑車	5t	2	縛帯		2
〃	オタフク	1	ユマール		2
プライムカット		1式	張力計	3t	1
クイックカット		1式	送排風機	ダクト付	1式
ハンマードリル		1	コードリール	2.9m	1
エアーソー		1式	スローダン	3.0m	1
ホルマトロ	スプレッダー	1	東消式担架		1
〃	カッター	1	バスケット担架	レスキューブライドル	1
〃	プランジャーラム	1	折りたたみ担架		2
〃	ホース・ホースリール	1	布担架		1
〃	エンジンポンプ	1	ユニオン担架		1
〃	フートポンプ	1	救命索発射銃	M-63	1式
〃	付属品	1式	削岩機		1式
ペダルカッター		1	巻きロープ		23
ダイヤモンドチェンソー	パワーユニット他	1式	Vスリング	3m・5m	6
スパカッター		1	都市型救助資機材	ザイル、プーリー他	1式
エンジンカッター		1	スリリングロープ		適量
チェンソー		1	捨綱		適量
アルミジャッキ		1	浮環		1
検電器		1	あて木		適量
ピンジャッキ		3	双眼鏡		1
拡声器		2	反射チョッキ		7
安全帯		6	サーチライト	ハロゲン	4
レスキューフォース		2	水中ライト		1
ゴーグル		7	水中メガネ	シュノーケル付	2
防塵マスク		6	つるはし		1
トップマン		1	なた		1
セーフティーボーイ		1	掛矢		1
ボルトクリッパー	絶縁タイプ	1	大ハンマー		1
パイプレンチ		1	大斧		1
サルベージシート		1	スコップ		2
投光器		1式	鋸		1
吸着剤		適量	とび口		2

※救助バッグ (小網×14・カラビナ×21・ワイドプーリー×2)

※救急用資機材 (救急箱×1・ディバッグ×2・梯状副子×適量)

(6) 通信施設

指令施設

指令台	3式	各台は、指令用ディスプレイ、 地図用ディスプレイ、 支援情報ディスプレイを装備
指揮台	1式	
無線統制台	1式	
署所端末装置	12式	
各種表示盤	1式	支援情報表示盤・車両運用表示盤
指令用ホストコンピューターシステム	1式	
発信地照会端末装置	1式	
携帯・IP電話等位置情報通知システム	1式	

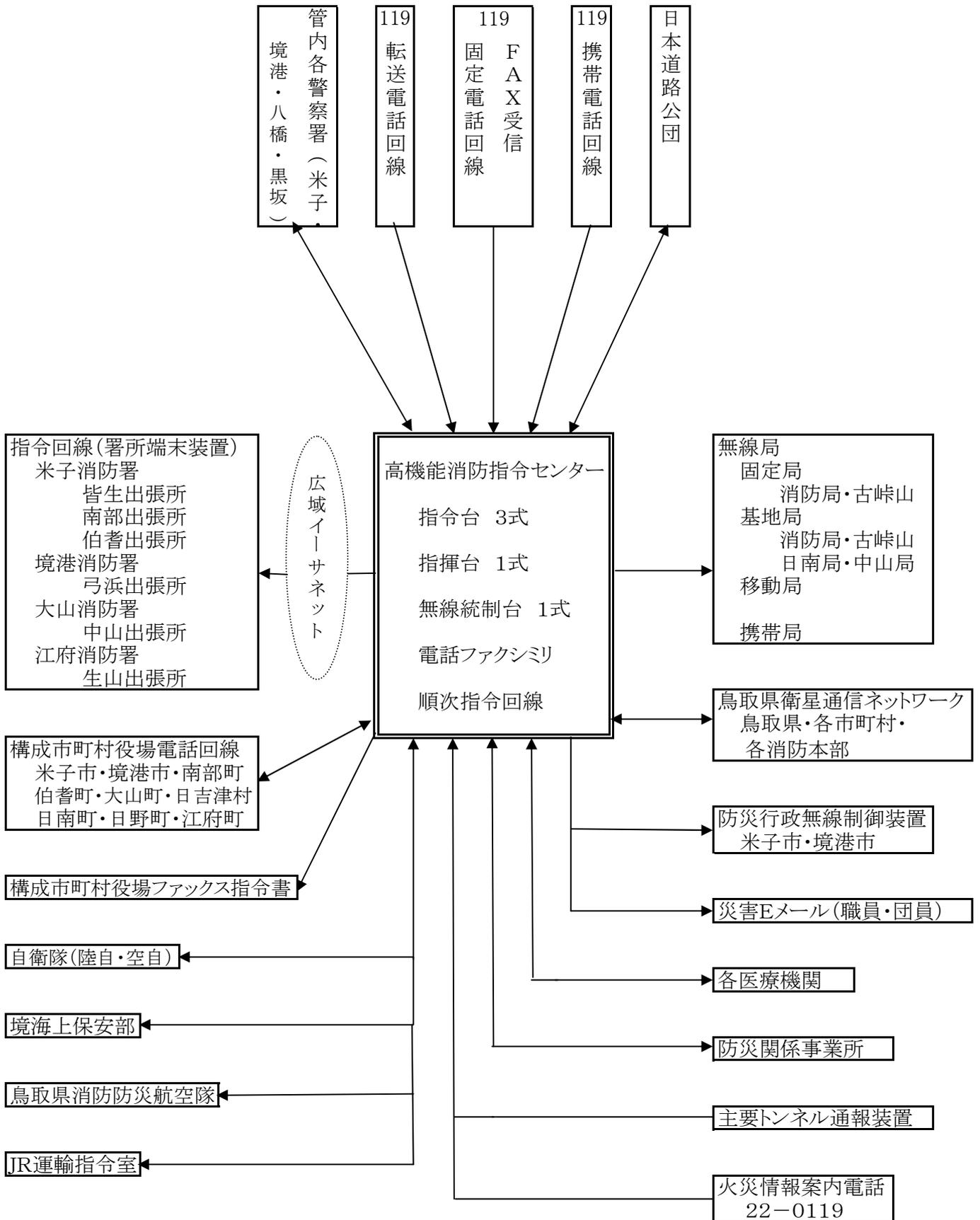
有線通信設備

119番専用回線	15回線	
固定電話回線 (ISDN回線)	12回線	IP電話重畳・FAX119
固定電話回線 (アナログ回線)	1回線	
携帯電話回線	2回線	
一般加入電話	23回線	
火災情報案内電話	10回線	
専用線		
署所指令専用線	10回線	
防災関係機関専用線	5回線	
広域イーサネット		
広域事務局・広域各施設		事務局・リサイクルプラザ・エコスラグセンター・米子浄化場 白浜浄化場・桜の苑
消防局・10署所		消防局・米子消防署・皆生(出)・南部(出)・伯耆(出)・境港消防署・弓浜(出)・大山消防署・中山(出)・江府消防署・生山(出)

無線通信設備

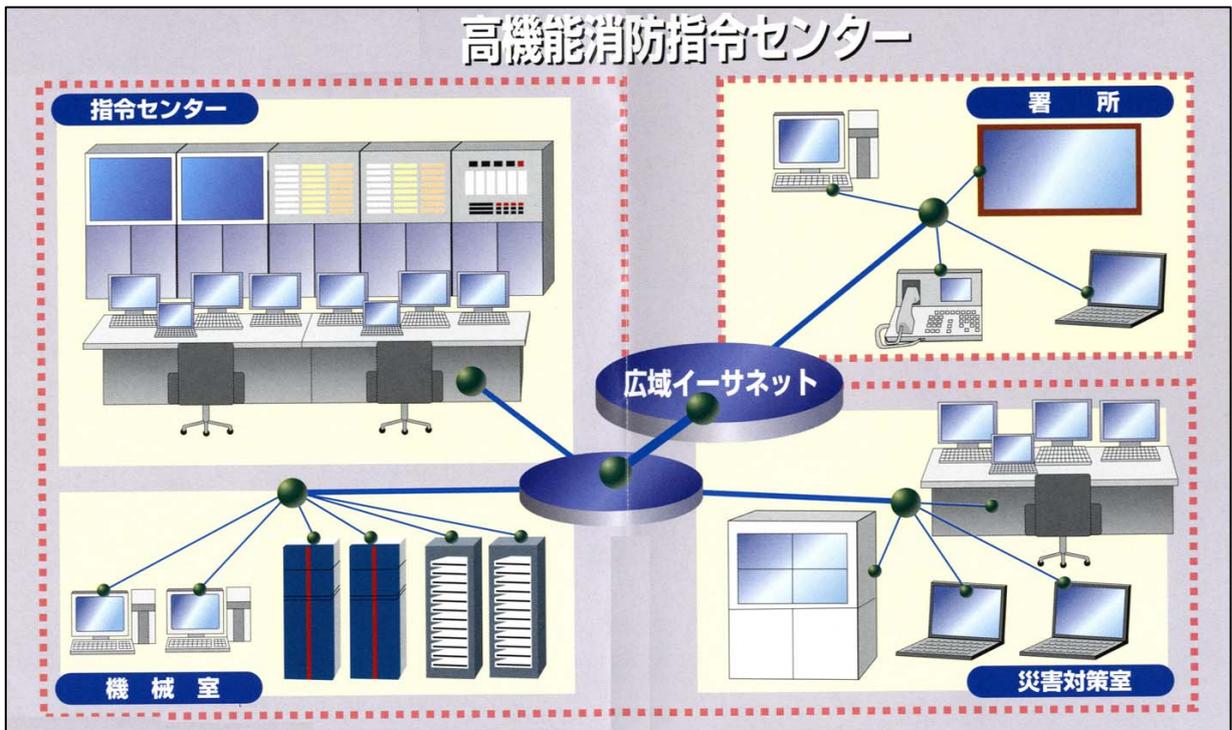
固定局	VSAT地球局	1局	鳥取県衛星通信ネットワーク	
	多重無線			
	消防局	1局		
	古峠山中継所	1局		
基地局	消防局	1局		
	古峠山中継所	1局		
	中山前進基地	1局		
	日南前進基地	1局		
陸上移動局	消防波	63局		
	救急波	15局		
	携帯局	5W	77局	
		10W	4局	

鳥取県西部消防局通信系統図





指令センター全景



高機能消防指令センター ネットワーク構成イメージ

予 防



予 防

(1) 防火対象物の現況

平成22年3月31日現在

種 別	項 別 (1)		(2)				(3)		(4)	(5)		(6)				(7)	(8)
	イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ	イ	ロ		イ	ロ	イ	ロ	ハ	ニ		
対 象 物 種 別	劇場、映画館、演芸場又は観覧場	公会堂又は集会場	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	遊技場又はダンスホール	性風俗関連特殊営業店舗	カラオケボックス等	待合、料理店その他これらに類するもの	飲食店	百貨店、マーケット、店舗又は展示場	旅館、ホテル、宿泊所その他これらに類するもの	寄宿舎、下宿又は共同住宅	病院、診療所、又は助産所	老人短期入所施設、養護老人ホーム	老人デイサービスセンター・軽費老人ホーム	幼稚園、盲ろう学校又は養護学校	小中学校、高校、大学、各種学校等	図書館、博物館、美術館等
延べ面積150㎡以上のもの	16	144	1	25		8	3	196	418	239	1,867	180	73	175	27	341	28
防火管理者を選任すべきもの	16	129	1	22		7	3	189	275	140	229	60	44	114	18	98	15

種 別	項 別 (9)		(10)	(11)	(12)		(13)		(14)	(15)	(16)		16の2	16の3	(17)	(18)	
	イ	ロ			イ	ロ	イ	ロ			イ	ロ					
対 象 物 種 別	蒸気浴場、熱気浴場等	イに掲げる以外の公衆浴場	停車場、船舶又は航空機の発着場	神社、寺院、教会等	工場又は作業場	映画スタジオ又はテレビスタジオ	自動車車庫又は駐車場	飛行機又は回転翼航空機の格納庫	倉庫	前各号に該当しない事業所	特防の存する複合用途防火対象物	イに掲げる以外の複合用途防火対象物	地下街	準地下街	重要文化財・重要美術品等の建築物	延長五十メートル以上のアーケード	合 計
延べ面積150㎡以上のもの	17	6	5	143	1,124		117	5	932	1,009	437	90			22	6	7,654
防火管理者を選任すべきもの	6	2	2	88	89		1	13	201	282	20			1			2,065

(2) 各種届出事務処理の状況

平成21年4月1日～平成22年3月31日

項目	防火対象物使用開始届	消防計画	防火管理者選解任届	火災とまぎらわしい行為	催物開催	液化石油ガス等	少量危険物	指定可燃物	水素ガス	変・発・蓄電池等	ネオン管灯設備	炉・厨房・ボイラー等	煙火打上げ	罹災証明	消防用設備等点検結果報告書	防火対象物点検結果報告	消防法法令適合通知	喫煙等承認申請
受理数	130	379	309	147	2	51	63	11		83		56	63	51	1,658	119	10	89

(3) 予防査察件数

防火対象物	954
危険物施設	229

(4) 防火指導等状況

訓練指導 (防火訓練)	防火対象物	294
	自主防災組織	46
防火広報		302

(5) 建築同意の用途別事務処理状況

平成21年4月1日～平成22年3月31日

区 分		合 計	新築	増築	その他
1	イ	劇 場 ・ 映 画 館 等			
	ロ	公 会 堂 又 は 集 会 場	3	1	1
2	イ	キ ャ バ レ ー 等			
	ロ	遊 技 場 等			
	ハ	性 風 俗 関 連 特 殊 営 業 店 舗			
	ニ	カ ラ オ ケ ボ ッ ク ス 等			
3	イ	待 合 ・ 料 理 店 等			
	ロ	飲 食 店	11	8	1
4		百 貨 店 ・ 店 舗 等	11	10	1
5	イ	旅 館 ・ ホ テ ル	4		4
	ロ	共 同 住 宅 ・ 寄 宿 舎	25	19	1
6	イ	病 院 ・ 診 療 所 等	7	5	1
	ロ	老 人 短 期 入 所 施 設 等	6	2	3
	ハ	老 人 デ ィ サ ー ビ ス 等	5	2	1
	ニ	幼 稚 園 ・ 養 護 学 校 等	3		3
7		学 校	15	5	5
8		図 書 館 ・ 美 術 館	1		1
9	イ	蒸 気 ・ 熱 気 浴 場 等			
	ロ	イ 以 外 の 公 衆 浴 場			
10		車 両 の 停 車 場 等			
11		神 社 ・ 寺 院 等	4	2	1
12	イ	工 場 ・ 作 業 場	19	12	6
	ロ	テ レ ビ ス タ ジ オ 等			
13	イ	車 庫 ・ 駐 車 場	1	1	
	ロ	飛 行 機 の 格 納 庫	1	1	
14		倉 庫	8	7	1
15		前 各 号 に 該 当 し な い 事 業 所	55	46	5
16	イ	特 別 防 火 対 象 物 が 存 す る 複 合 用 途 防 火 対 象 物	4	3	1
	ロ	イ 以 外 の 複 合 用 途 防 火 対 象 物	4	2	1
17		重 要 文 化 財			
18		50m 以 上 の ア ー ケード			
一 般 住 宅		専 用 住 宅	42	32	7
	併 用	店 舗 付	1	1	
		そ の 他	1	1	
	長	屋 住 宅	50	49	1
	昇 降 機	1	1		
合	計	282	210	36	36

(6) 危険物製造所等の現況 (地区別施設件数)

平成22年3月31日現在

施設 市町村名	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
			屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油	販 売	移 送	一 般
米 子 市	540	1	77	26	12	173		74	10	95	1		71
境 港 市	428		25	73	4	63		150	41	41		1	30
日 吉 津 村	13		1			2		1	1	8			
大 山 町	166		5	5	7	101		13	4	18			13
南 部 町	39		6	2	1	15		5		6			4
伯 耆 町	95		3	4	3	55		3		17			10
日 南 町	45		2	3	1	13		6	1	15			4
日 野 町	29		2	2	1	12		2	1	4			5
江 府 町	27		1			9		2		9			6
合 計	1,382	1	122	115	29	443		256	58	213	1	1	143

(7) 危険物製造所等の事務処理件数

施設 区分	合 計	製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所			
			屋 内	屋 外 タ ン ク	屋 内 タ ン ク	地 下 タ ン ク	簡 易 タ ン ク	移 動 タ ン ク	屋 外	給 油	販 売	移 送	一 般
設 置 許 可	9							6		2			1
変 更 許 可	105			13		8		30		47			7
設 置 完 成 検 査	9							6		2			1
変 更 完 成 検 査	103			12		8		30		46			7
仮 使 用 承 認	43			2						36			5
完 成 検 査 前 検 査	42												
仮 貯 蔵 ・ 仮 取 扱	53												
品 名 ・ 数 量 等 変 更 届	8												
譲 渡 引 渡 届	9												
設 置 者 等 変 更 届	55												
廃 止 届	54												
保 安 監 督 者 選 解 任 届	69												
使 用 休 止 再 開 届	9												

(8) 火薬類取締法関係

	区 分	件 数
許 可	譲 渡 許 可	5
	譲 受 許 可	1
	譲 受・消 費 許 可	31
	煙 火 消 費 許 可	44
	合 計	81

	区 分	件 数	
立 入 検 査	消費場所	採 石	22
		土 木	12
		その他	6
	煙 火 消 費 許 可	41	
	合 計	81	

(9) 液化石油ガス法関係

処 理 内 容	件 数
液 化 石 油 ガ ス 設 備 工 事 届 受 理	15

火災概況



I 火災概況

(平成21年1月～12月)

1 火災状況

(1) 火災件数

平成21年中の火災件数は100件で、前年に比べ3件(-2.9%)少なく過去10年間で最も少なくなっています。

(別表I-1、別表I-5、別図I-1参照)

(2) 火災種別

種別ごとの構成比をみますと、建物火災が全体の54%を占め、次いでその他火災34%、車両火災8%、林野火災4%の順となっています。

(別表I-1、別図I-2参照)

(3) 月別

月別の火災件数をみますと、6月が最も多く15件、次いで4月が12件、3月の11件、2月と5月の10件となっています。

種別ごとの火災発生状況をみますと、建物火災は6月に9件、林野火災は3月から6月にかけて1件ずつ、その他火災は3月に6件と最も多く発生しています。

(別表I-2、別図I-3参照)

(4) 市町村別

市町村別の火災件数をみますと、米子市が最も多く54件、次いで境港市の22件、大山町の12件となっています。

なお、日吉津村は平成18年5月以降、日野町は平成20年1月以降、火災の発生はありません。

(別表I-3、別図I-4参照)

(5) 損害額

損害額は190,100,000円で、前年(587,798,000円)に比べ、397,698,000円減少しています。

種別ごとでは、建物火災が187,180,000円で全体の98.5%を、月別では12月の68,635,000円が全体の36.1%を占めています。

(別表I-1、別表I-2参照)

2 出火原因

出火原因の第1位は「放火(疑い含む)」で21件、次いで「たき火」と「火入れ」10件、「こんろ」7件、「ストーブ」6件の順となっています。

(別表I-4参照)

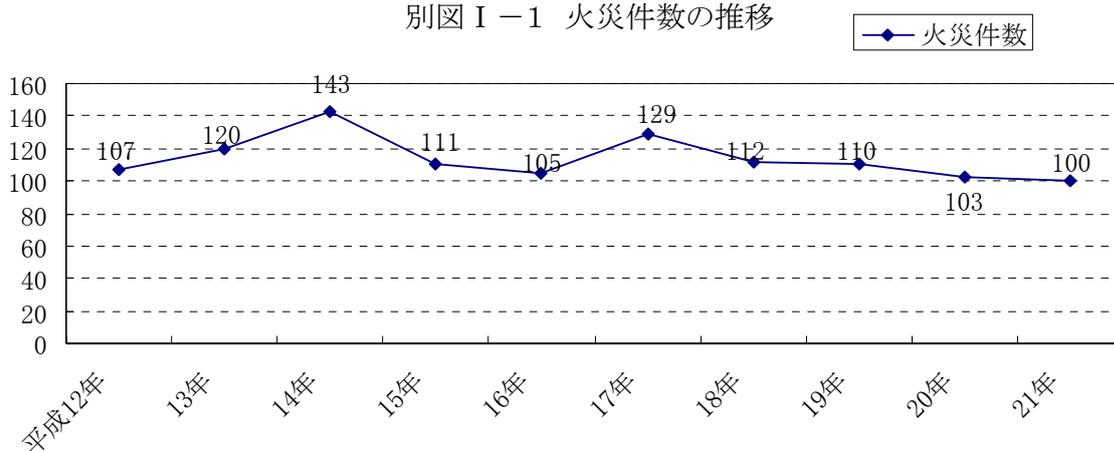
3 死者・負傷者

死者は2人で、前年（7人）より5人少なく、逆に、負傷者は6人多く15人となっています。

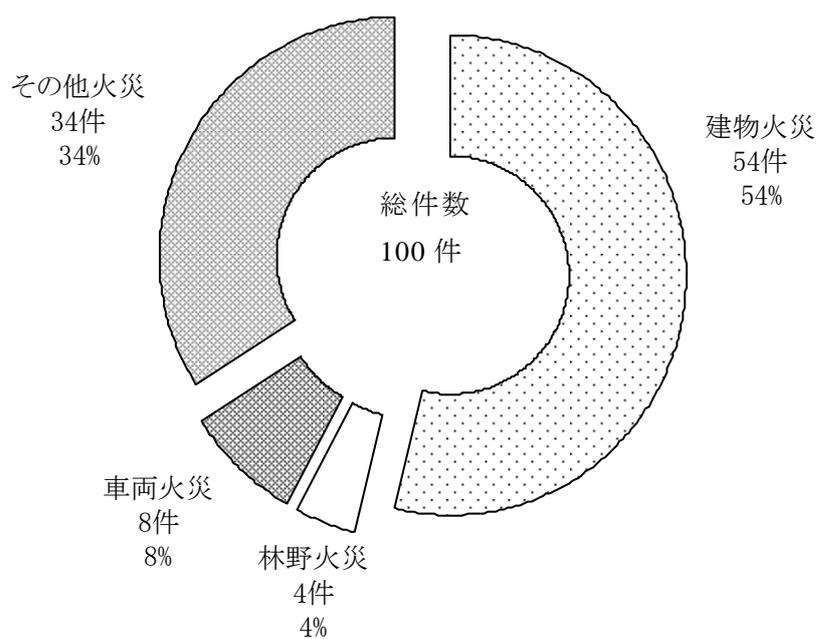
負傷者は消火しようとした際に多く発生しています。

（別表 I - 1、別図 I - 5、別図 I - 6 参照）

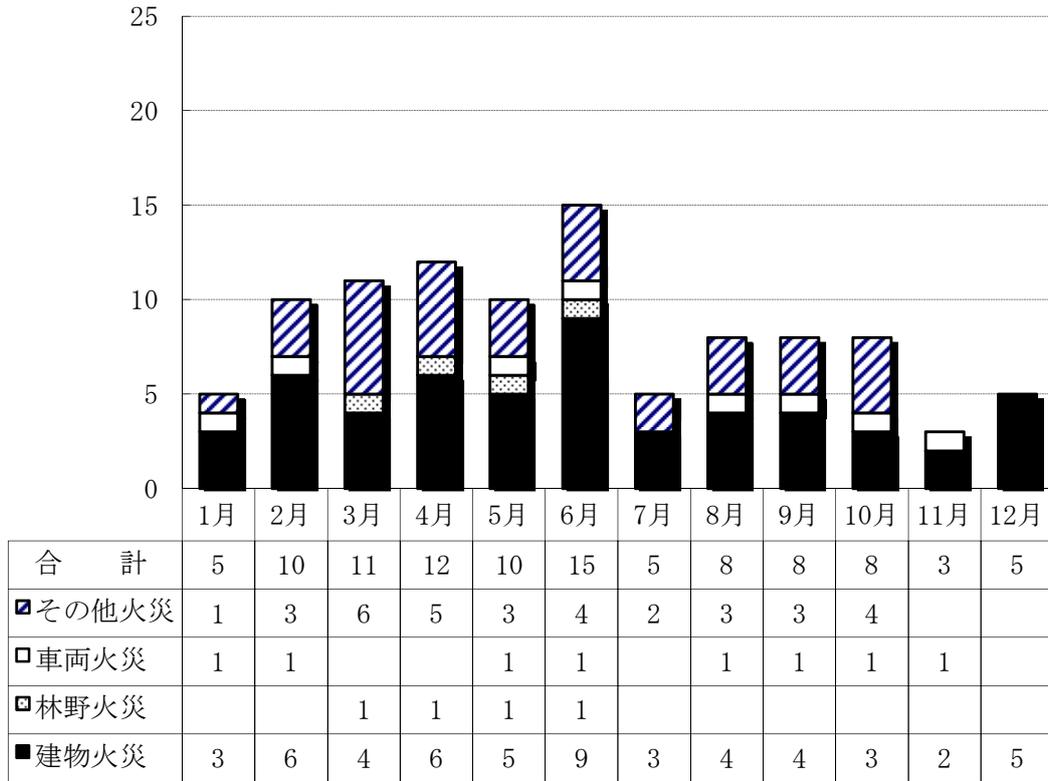
別図 I - 1 火災件数の推移



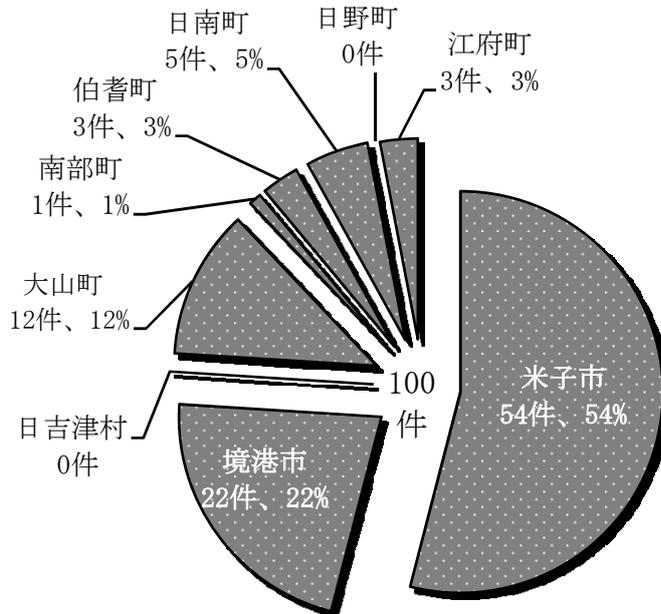
別図 I - 2 火災種別ごとの件数と構成比率



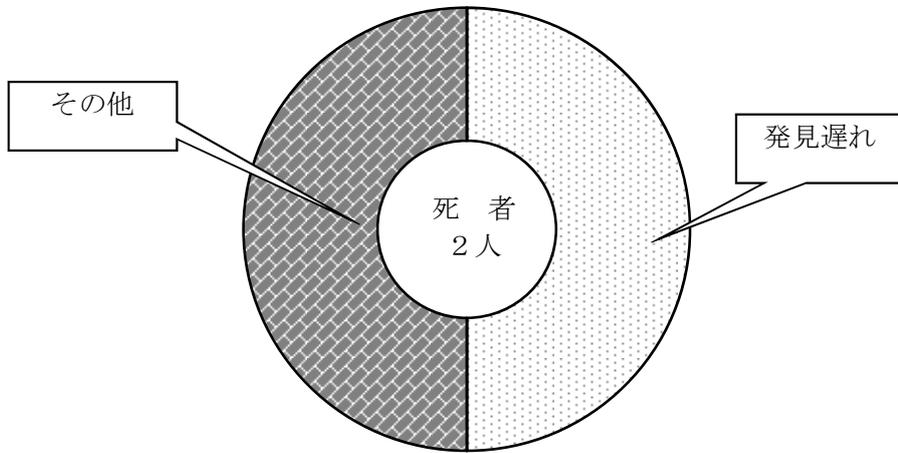
別図 I - 3 月別の火災件数



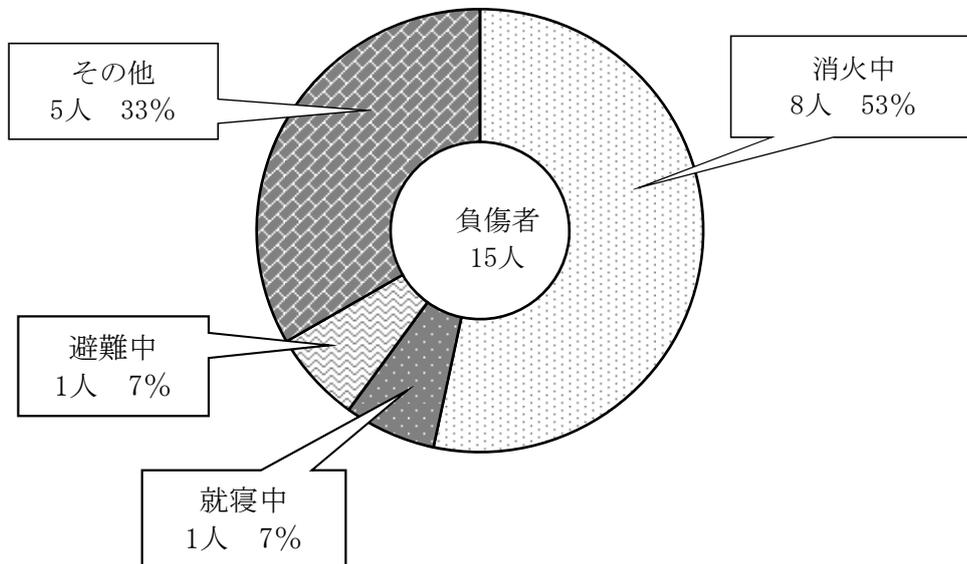
別図 I - 4 市町村別火災件数の構成比率



別図 I - 5 経過別死者発生状況



別図 I - 6 経過別負傷者発生状況



別表 I - 1 平成 21 年の火災の概況

区 分	平成 21 年 A	平成 20 年 B	増 減 C (A-B)	増 減 率 C/B (%)	
火災件数(件)	100(100%)	103(100%)	-3	-2.9%	
建物火災	54(54.0%)	61(59.2%)	-7	-11.5%	
林野火災	4(4.0%)	3(2.9%)	1	33.3%	
車両火災	8(8.0%)	14(13.6%)	-6	-42.9%	
船舶火災	()	()			
その他火災	34(34.0%)	25(24.3%)	9	36.0%	
焼損棟数(棟)	76(100%)	88(100%)	-12	-13.6%	
全焼	21(27.6%)	29(33.0%)	-8	-27.6%	
半焼	3(3.9%)	3(3.4%)	0	0.0%	
部分焼	29(38.2%)	30(34.1%)	-1	-3.3%	
ぼや	23(30.3%)	26(29.5%)	-3	-11.5%	
罹災世帯数(世帯)	47(100%)	40(100%)	7	17.5%	
全損	12(25.5%)	7(17.5%)	5	71.4%	
半損	3(6.4%)	()	3		
小損	32(68.1%)	33(82.5%)	-1	-3.0%	
罹災人員(人)	125	135	-10	-7.4%	
焼損面積	建物(m ²)	3,187	3,889	-702	-18.1%
	林野(a)	20	2	18	900.0%
損害額(千円)	190,100	587,798	-397,698	-67.7%	
建物火災	187,180	558,269	-371,089	-66.5%	
林野火災	286	15	271	1806.7%	
車両火災	2,438	28,639	-26,201	-91.5%	
船舶火災					
その他火災	178	875	-697	-79.7%	
1件当り 損害額 (千円)	火災全体	1,901	5,707	-3,806	-66.7%
	建物火災	3,466	9,152	-5,686	-62.1%
1件当り 損害面積	建物(m ²)	59	64	-5	-7.8%
	林野(a)	5	1	4	400.0%
死者(人)	2	7	-5	-71.4%	
負傷者(人)	15	9	6	66.7%	
出火率(人口1万人当り)	4.15	4.16	-0.01	-0.2%	

備考 () 内は構成比を示す。なお、損害額については概数

別表 I - 2 月別火災発生状況

	合計		建物火災		林野火災		車両火災		船舶火災		その他火災				焼損棟数				り災世帯			死者	負傷者	30日以内死亡	
	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	焼損面積 ㎡	件数	損害額 (千円)	焼損面積 a	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	件数	損害額 (千円)	合計	全	半	小	り	災	人員				者
1月	5	16,805	3	16,715	191			1	90			1		9	3	4	2	7	1	6	23		1		
2月	10	18,211	6	17,775	626			1	436			3		9	4	2	3	9	4	5	22		2		
3月	11	11,362	4	11,064	208	1	248	9				6	50	6	2	1	3	4	2	2	11		1		
4月	12	2,293	6	2,232	96	1	38	1				5	5	7	1	1	2	3	4	1	3	9		2	
5月	10	2,927	5	2,902	221	1		1	25			3		10	3	1	6	3	1	1	7		2		
6月	15	4,782	9	3,784	94	1		10	998			4		10	1	5	4	6		6	18	2			
7月	5	53,042	3	53,042	1,112							2		3	1	1	1	1	1	1	2		1		
8月	8	821	4	726	121			1	92			3	3	5	2	2	1	1	1		4		1		
9月	8	8,831	4	8,228	110			1	603			3		6	2	1	1	4	1	1	2	8			
10月	8	398	3	90				1	188			4	120	3		1	2	3	3	3	11		2		
11月	3	1,993	2	1,987	69			1	6					2		2		1		1	1				
12月	5	68,635	5	68,635	339									6	2	2	2	4	2	2	9		3		
合計	100	190,100	54	187,180	3,187	4	286	20	2,438	0		34	178	76	21	3	29	23	47	12	3	32	125	2	15

別表 I - 3 市町村別火災状況

	火災件数						焼損面積		焼損棟数				り災人員	死者	負傷者 30日以内死亡	損害額 (千円)					
	合計	建物	林野	車両	船舶	その他	床面積 ㎡	表面积 ㎡	合計	全	半	ば					合計	全	半	小	
米子市	54	28		4		22	1,066	67	41	10	2	15	14	27	6	2	19	68	11		41,983
境港市	22	14				8	535	19	18	4	1	7	6	13	3	1	9	39	1		27,148
日吉津村	0																				0
大山町	12	7	1	1		3	1,248	9	7	3		1	3	4	1		3	12	1		114,208
南部町	1	1						2	1			1									0
伯耆町	3	2		1			90	23	4	2		2		1	1			4			2,464
日南町	5	1	2	2			180		11	1				1	1			1	1		3,599
日野町	0																				0
江府町	3	1	1			1	68	10	4	1		3		1			1	1	1		698
合計	100	54	4	8		34	3,187	130	76	21	3	29	23	47	12	3	32	125	2	15	190,100

別表 I - 4 出火原因別火災発生概況

原因別	出火件数							損害額（千円）	死者負傷者	
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	死者	負傷者
合計	100	54	4	8			34	190,100	2	15
たばこ	5	4					1	4,035	1	1
こんろ	7	7						119		2
かまど										
風呂かまど										
炉										
焼却炉										
ストーブ	6	6						24,143		2
こたつ										
ボイラー										
煙突・煙道	1	1								
排気管	1			1				603		
電気機器	2	2						55		
電気装置	1			1				6		
電灯・電話等の配線	3	3						56,520		
内燃機関										
配線器具	1	1						104		
火あそび	3	2					1	587		
マッチ・ライター	1	1						1		1
たき火	10	1	2				7	450	1	1
溶接機・切断機										
灯火	1	1						4		1
衝突の火花										
取灰										
火入れ	10	1	2				7	547		4
放火	5	3					2	6,305		1
放火の疑い	16	6					10	14,707		
その他	9	7		1			1	2,681		
不明・調査中	18	8		5			5	79,233		2

別表I-5 過去5年間の市町村別火災件数

	平成21年				平成20年				平成19年				平成18年				平成17年													
	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他	合 計	建 物	林 野	車 両	船 舶	そ の 他						
米子市	54	28		4		22	47	30		9		8	56	37		5		14	59	50		4		5	71	49	1	8		13
境港市	22	14				8	23	10			13		24	8		1		15	23	18		1		4	11	4	1	1	5	
日吉津村	0						0						0						2			1		1	4	1			3	
大山町	12	7	1	1		3	12	6	2	1		3	9	5	2	1		1	11	6		3		2	20	13		4	3	
南部町	1	1					3	3					6	3	2	1			3	2		1			4		3	1		
伯耆町	3	2		1			7	3		3		1	6	4	1			1	4	2	1			1	8	6	1	1		
日南町	5	1	2	2			6	5	1				3	3					9	8				1	4	4				
日野町	0						0						4	3		1			1						2	2				
江府町	3	1	1			1	5	4		1			2	2					0						3	2		1		
合 計	100	54	4	8		34	103	61	3	14	25	110	65	5	9	31	112	86	1	11		14	127	81	5	16	1	24		

救急救助概況



II 救急概況

(平成21年1月～12月)

1 救急出動件数、救急搬送状況

平成21年中の救急出動件数は、前年に比べて68件減の8,421件、搬送人員は51人減の7,923人で、ともに3年連続の減少となりました。
(別図Ⅱ-1、Ⅱ-2、Ⅱ-3参照)

2 市町村別救急活動状況

救急出動件数、救急搬送人員がともに減少傾向の中、前年に比べ米子市、大山町、南部町、江府町では増加しました。
(別図Ⅱ-4参照)

3 傷病程度別搬送状況

傷病程度別の搬送人員では、中等症が3,863人(48.8%)で最も多く、次いで軽症が2,788人(35.2%)となっています。
(別図Ⅱ-5参照)

4 年齢別搬送状況

年齢別の搬送人員では、65歳以上の高齢者が4,515人(57%)と最も多く、割合は増加しました。
(別図Ⅱ-6参照)

5 署所別救急活動状況

署所別では、米子消防署の出動件数及び搬送人員がそれぞれ2,938件(34.8%)、2,677人(33.8%)と最も多くなっています。
(別図Ⅱ-7参照)

6 月別救急活動状況

月別の出動件数と搬送人員では、1月がそれぞれ828件(9.8%)、775人(9.8%)で最も多く、続いて12月の811件(9.6%)、770人(9.7%)となっています。
(別図Ⅱ-8参照)

7 現場到着所要時間、収容所要時間

平均現場到着所要時間は7分6秒で前年より1秒の短縮、平均収容所要時間は33分45秒で昨年より1秒短縮しました。
(別図Ⅱ-9、Ⅱ-10参照)

8 応急手当実施状況

心肺停止傷病者255人のうち、家族等により応急手当を受けた人は、113人(44%)でした。
(別図Ⅱ-11参照)

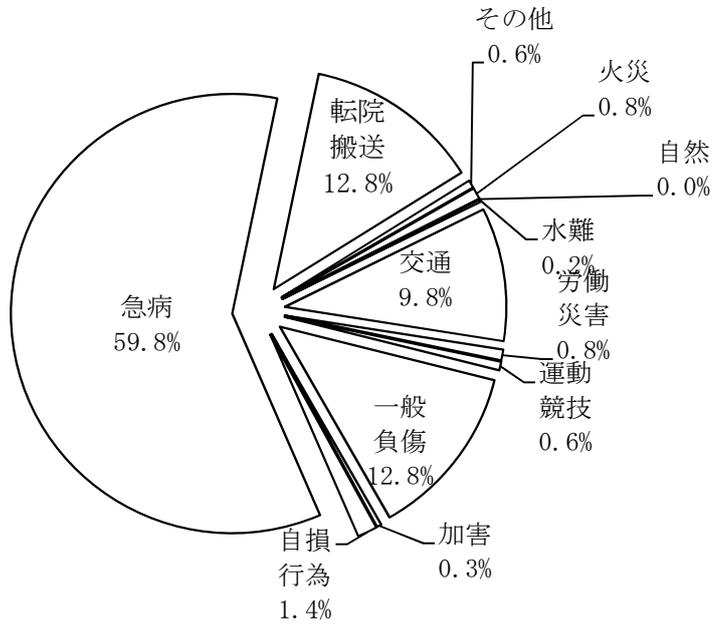
9 高度救命処置状況

心肺停止傷病者255人のうち188人が救急救命士による高度救命処置を受け、そのうち25人に回復が見られました。
(別図Ⅱ-12、Ⅱ-13参照)

10 救急講習件数の推移

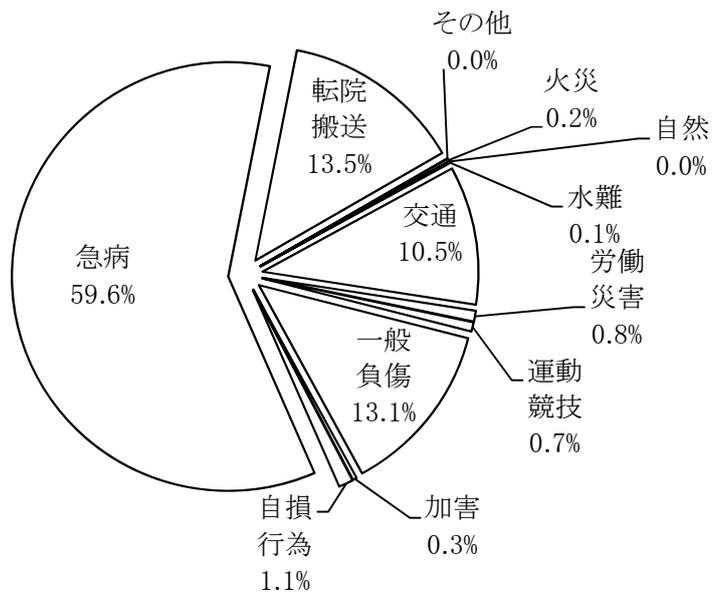
救急講習には、毎年10,000人以上の人が受講され、圏域住民の応急手当に対する意識の高さがうかがえます。
(別図Ⅱ-14、Ⅱ-15、別表Ⅱ-1参照)

別図Ⅱ-1 事故種別救急出動状況



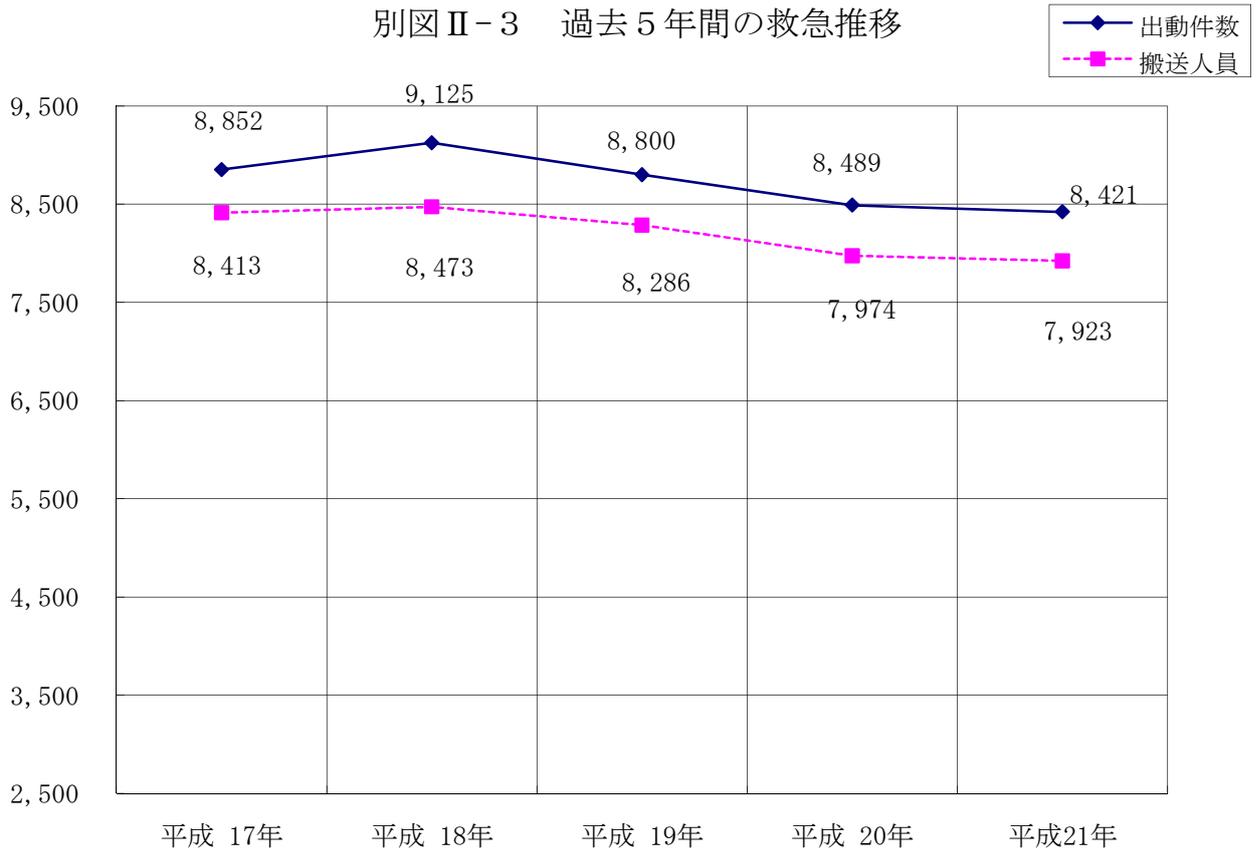
事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
出動件数	70	0	16	826	66	54	1,080	27	121	5,032	1,081	48	8,421

別図Ⅱ-2 事故種別救急搬送状況

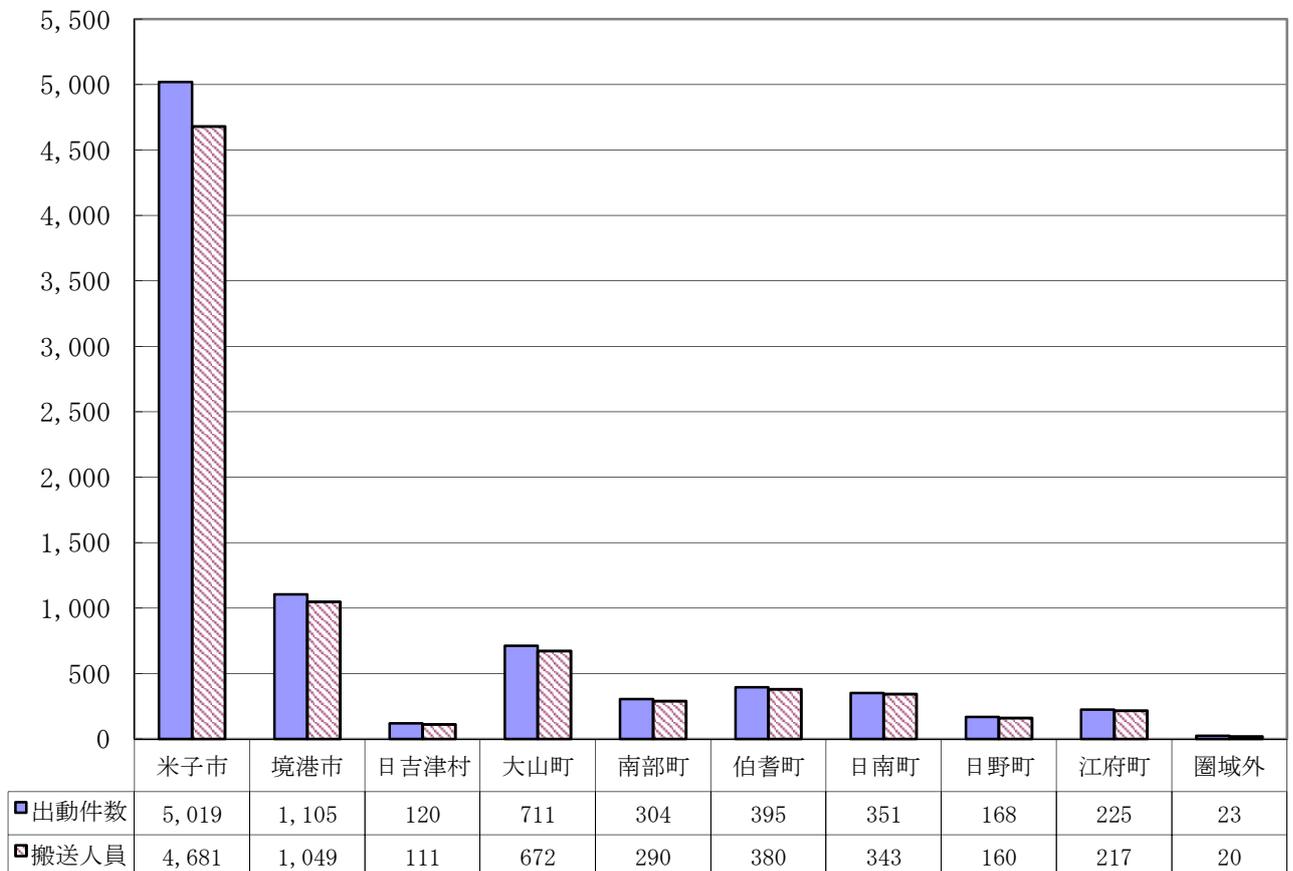


事故種別	火災	自然	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	その他	計
搬送人員	17	0	10	829	65	55	1,037	23	86	4,726	1,073	2	7,923

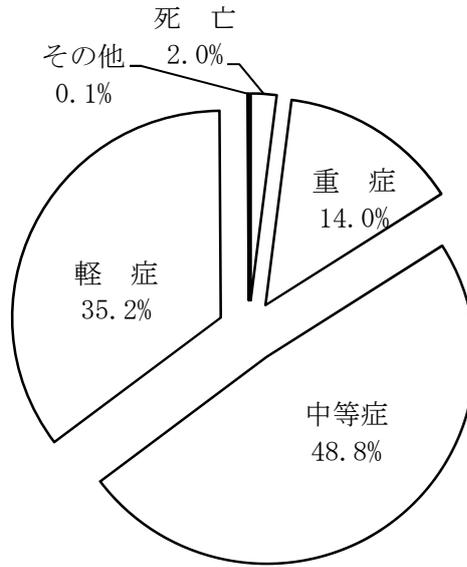
別図Ⅱ-3 過去5年間の救急推移



別図Ⅱ-4 市町村別救急活動状況

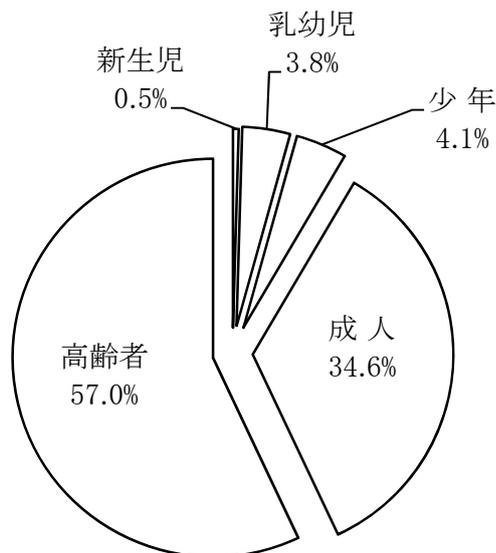


別図Ⅱ-5 傷病程度別搬送状況



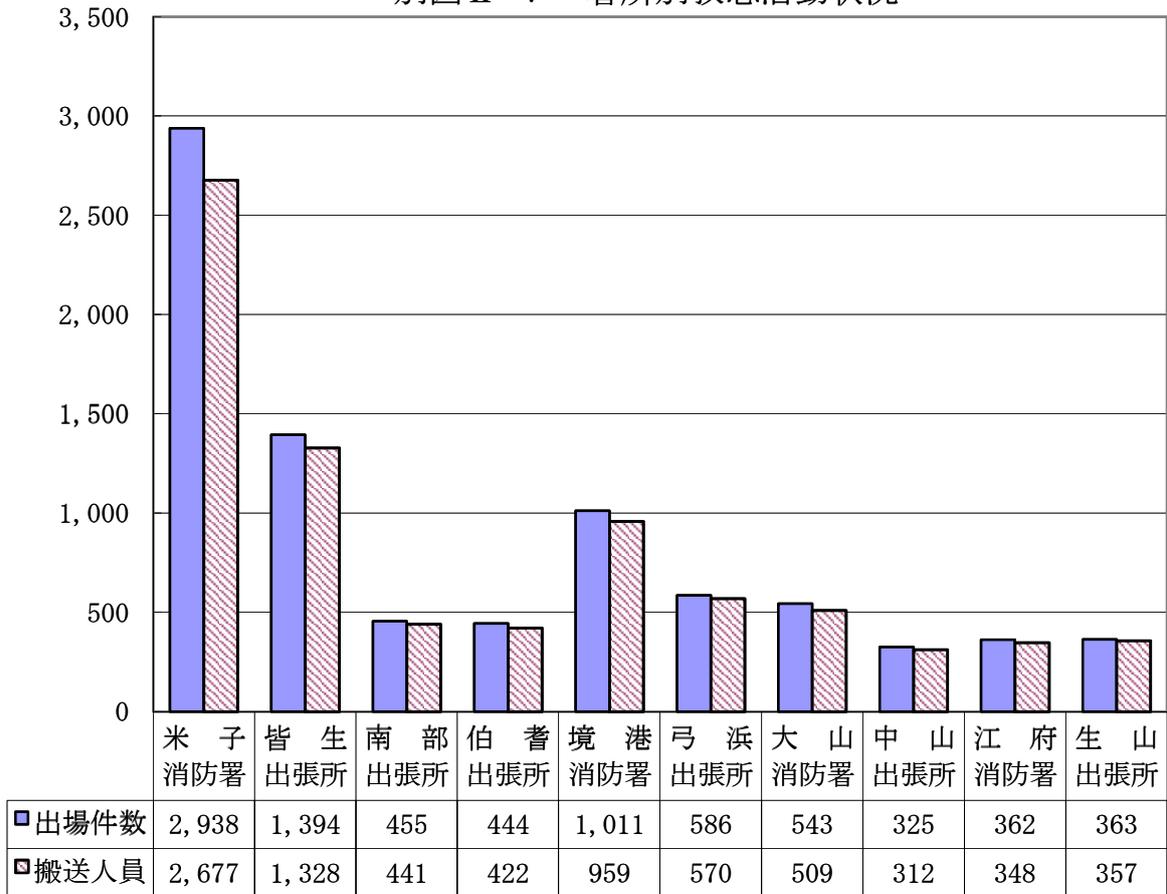
程 度	死 亡	重 症	中等症	軽 症	その他	合 計
搬送人員	158	1,107	3,863	2,788	7	7,923

別図Ⅱ-6 年齢別搬送状況

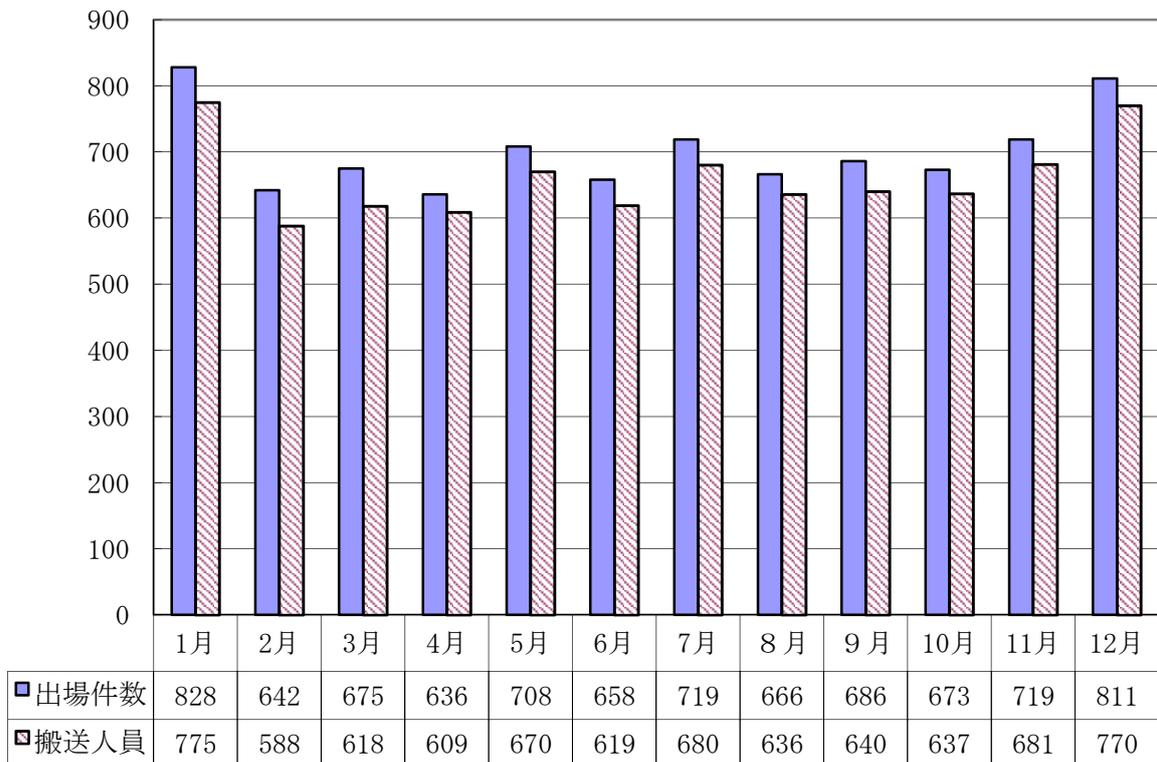


	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合 計
搬送人員	36	305	327	2,740	4,515	7,923

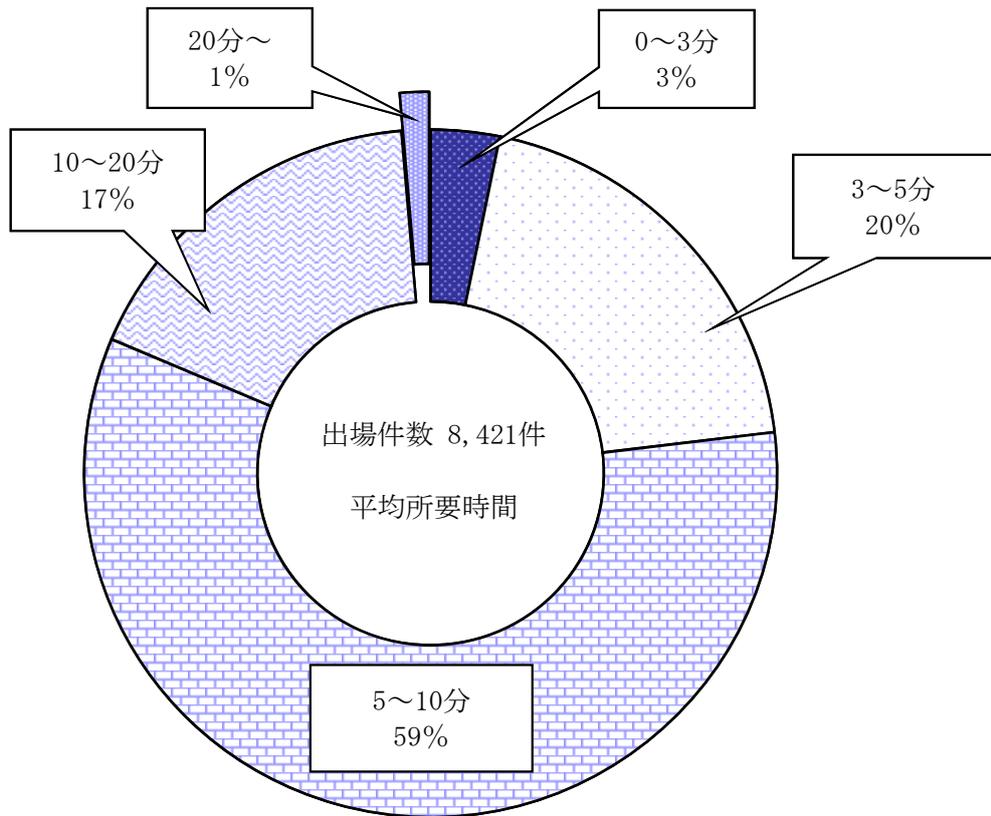
別図Ⅱ-7 署所別救急活動状況



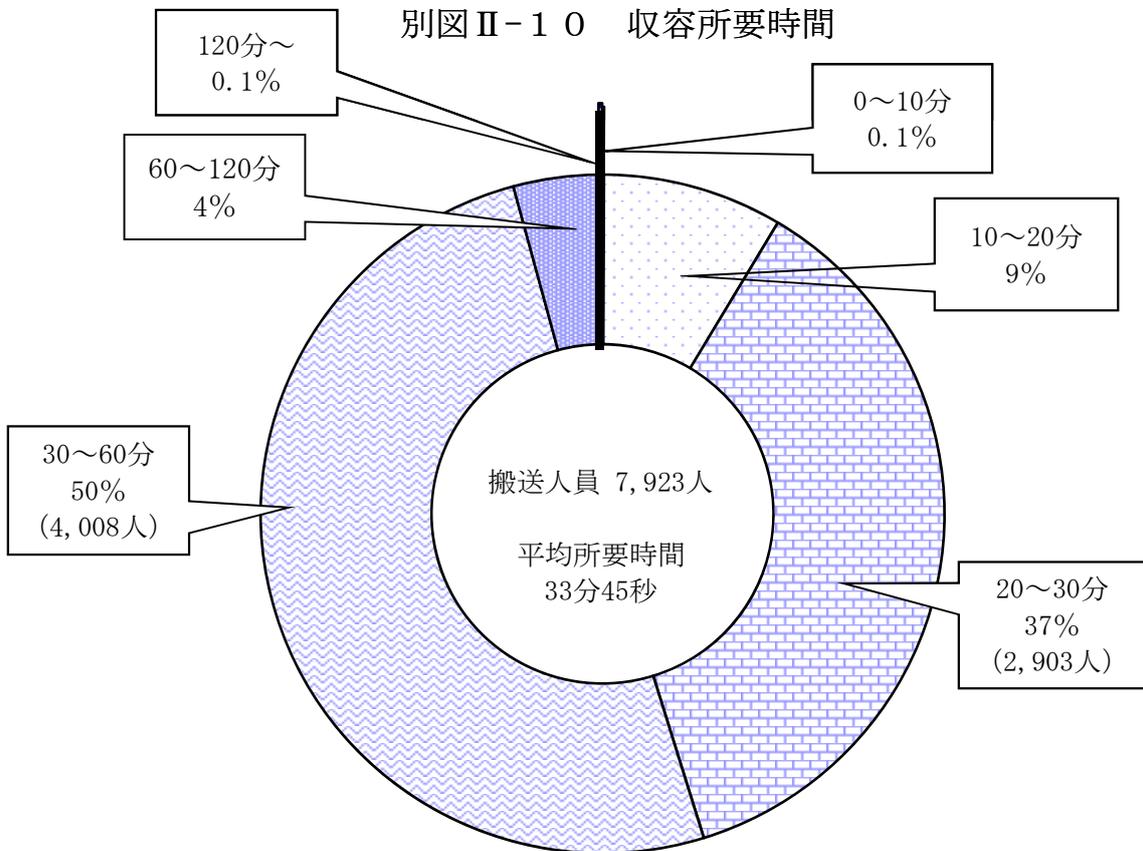
別図Ⅱ-8 月別救急活動状況



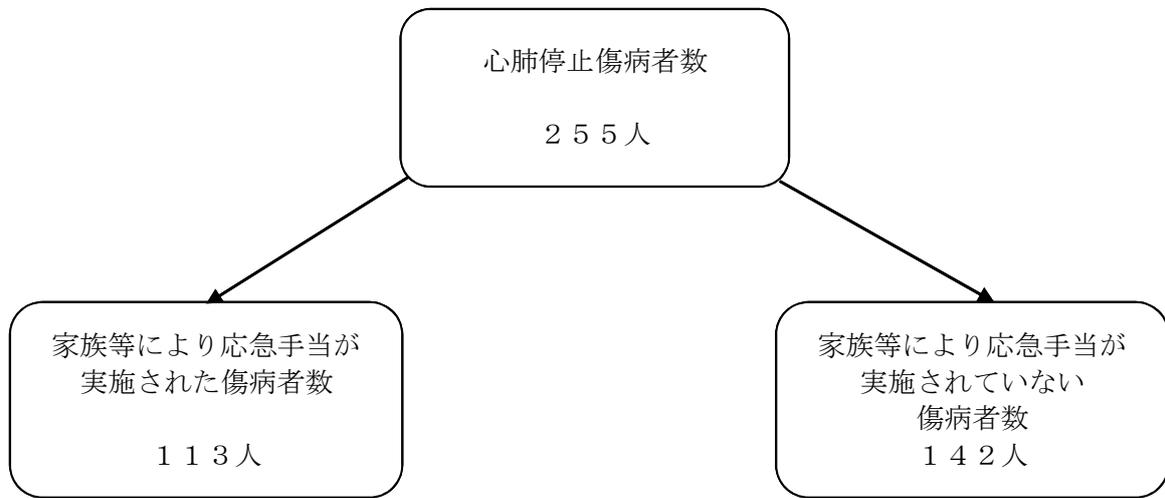
別図Ⅱ-9 現場到着所要時間



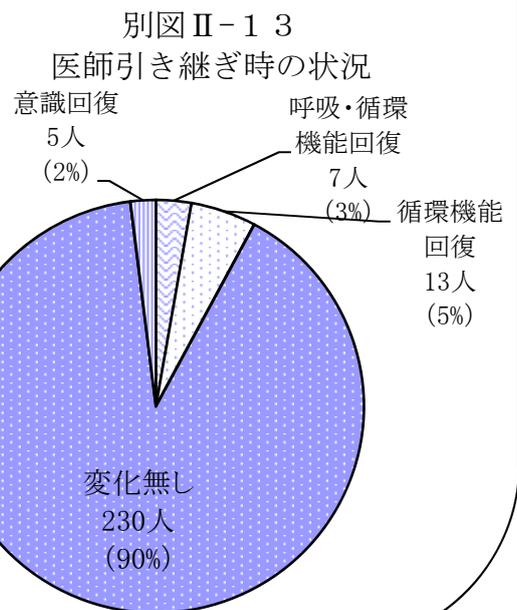
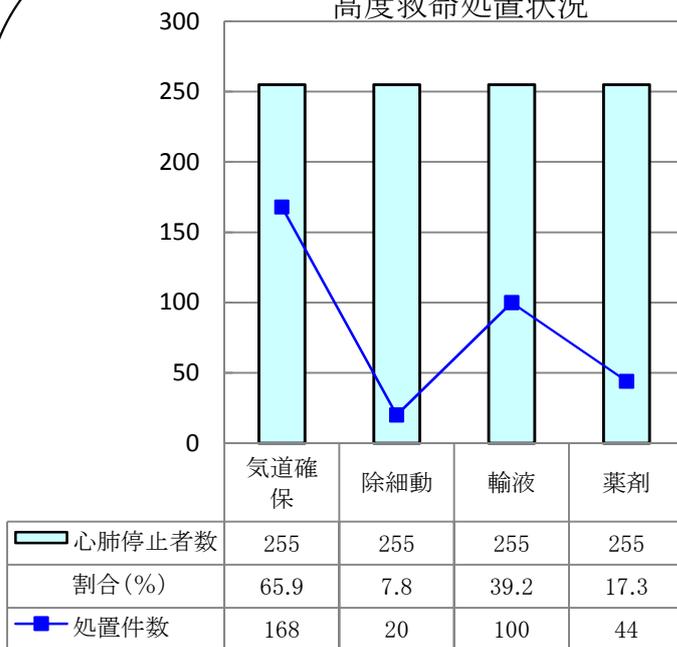
別図Ⅱ-10 収容所要時間



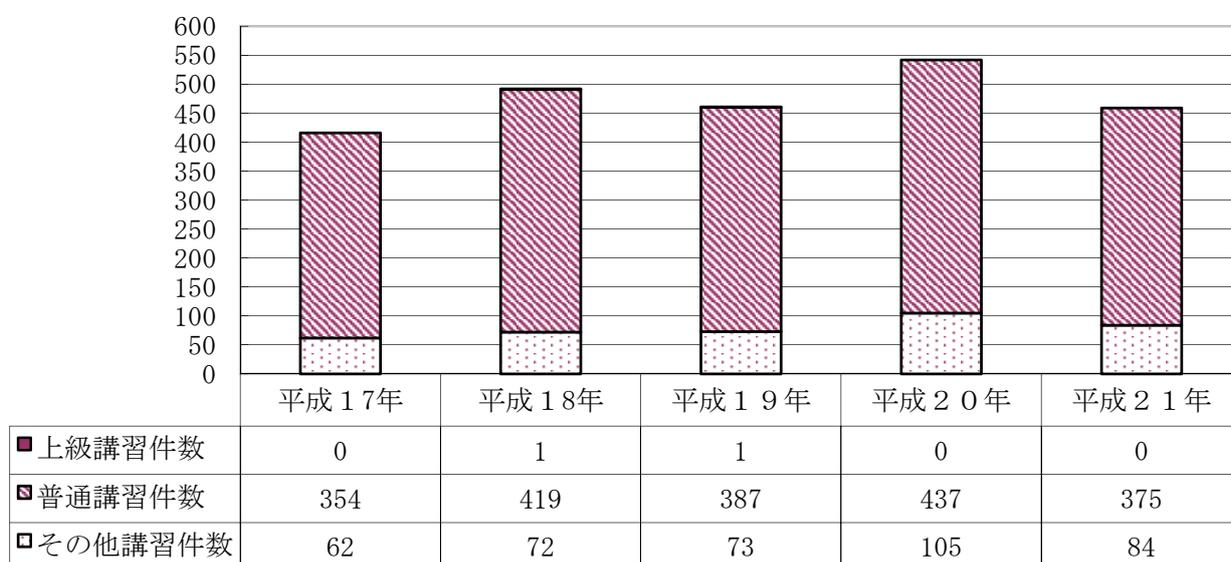
別図Ⅱ-1 1 応急手当実施状況



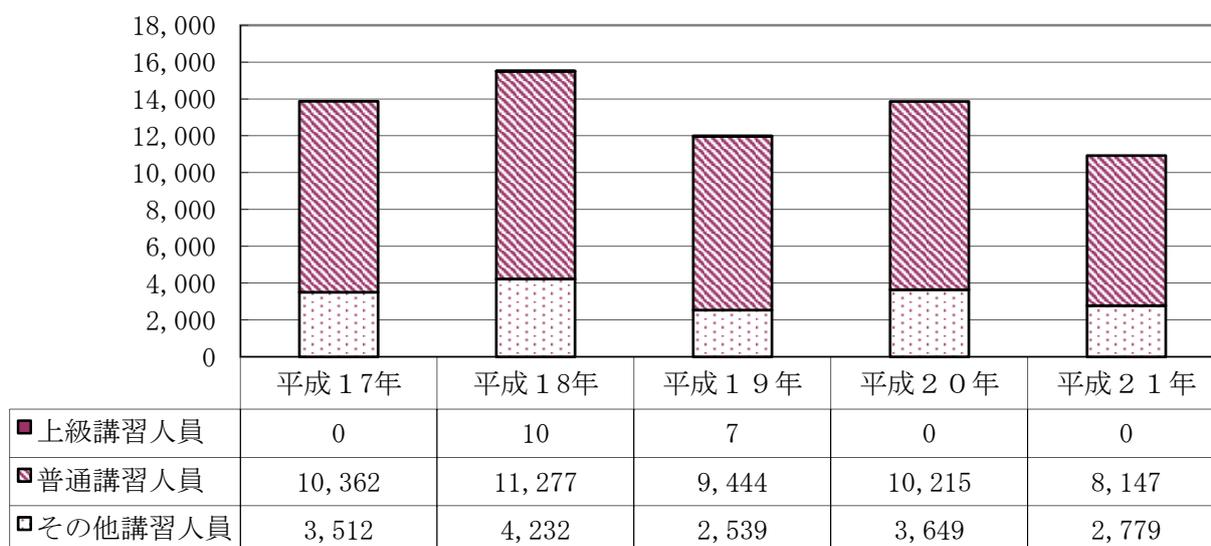
別図Ⅱ-12
高度救命処置状況



別図Ⅱ－14 過去5年間の救急講習件数推移



別図Ⅱ－15 過去5年間の救急講習人員推移



別表Ⅱ－1 応急手当指導員・普及員の養成

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
応急手当指導員	0	0	11	16	0
応急手当普及員	33	12	0	21	15

Ⅲ 救助概況

(平成21年1月～12月)

1 事故種別救助出動状況

救助出動件数は170件あり、そのうち交通事故が77件(45.3%)、火災が44件(25.9%)、その他の事故が19件(11.2%)、水難事故が17件(10.0%)、建物等による事故が7件(4.1%)、機械による事故が6件(3.5%)の順となっています。

(別図Ⅲ—1参照)

2 事故種別救助活動状況

救助活動件数は129件あり、そのうち交通事故が51件(39.5%)、火災が44件(34.1%)、その他の事故が15件(11.6%)、水難事故が8件(6.2%)、建物等による事故6件(4.7%)の順となっています。

(別図Ⅲ—2参照)

3 事故種別救助人員状況

救助活動により救助された人員は97人あり、そのうち交通事故が53人(54.6%)と最も多く、次いでその他の事故が15人(15.5%)、建物等による事故11人(11.3%)、水難事故が7人(7.2%)、火災等による事故が6人(6.2%)となっています。

(別図Ⅲ—3参照)

4 管轄別救助活動状況

消防署の管轄別に出動件数を見ると、米子消防署が106件(62.3%)と最も多く、次いで境港消防署が25件(14.7%)、江府消防署が20件(11.8%)、大山消防署が19件(11.2%)の順となっています。

(別図Ⅲ—4参照)

5 市町村別救助活動状況

市町村別に救助活動状況を比較して見ると、出動件数、活動件数、救助人員ともに、米子市が最も多く出動件数90件(52.9%)、次いで境港市が19件(11.2%)、大山町が17件(10.0%)、伯耆町が13件(7.6%)、等の順となっており、他米子道、山陰道、管轄外へも出動しています。

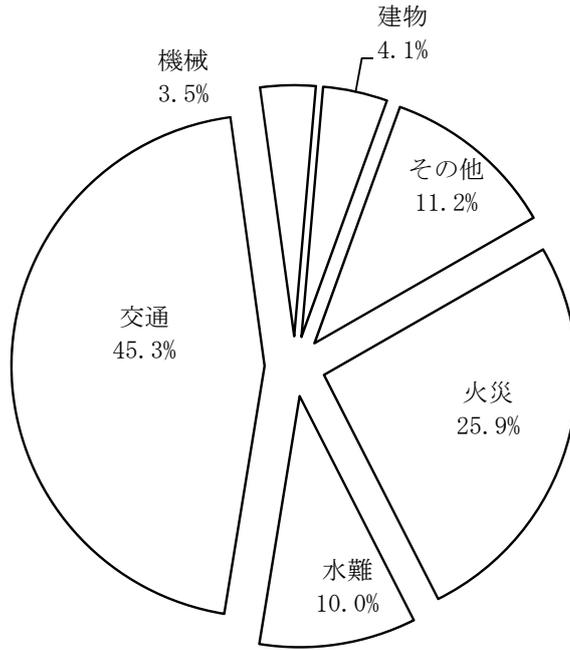
(別図Ⅲ—5参照)

6 月別救助活動状況

月別の救助出動件数を見ると、7月が25件(14.7%)と最も多く、次いで9月が19件(11.2%)、2月が16件(9.4%)、12月が15件(8.8%)等の順となっています。

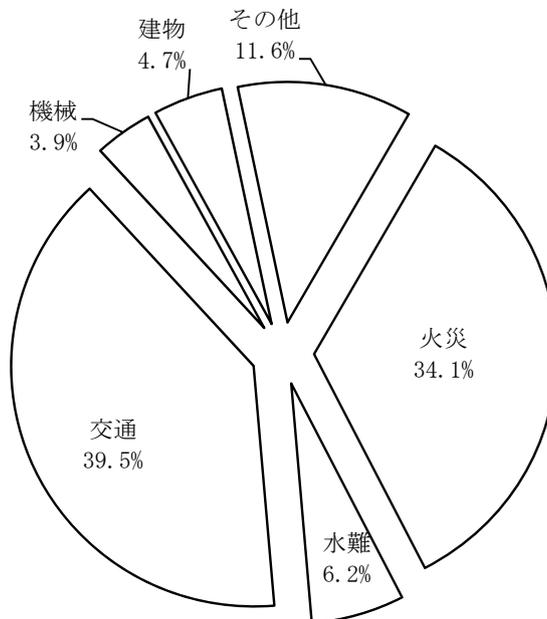
(別図Ⅲ—6参照)

別図Ⅲ-1 事故種別救助出動状況



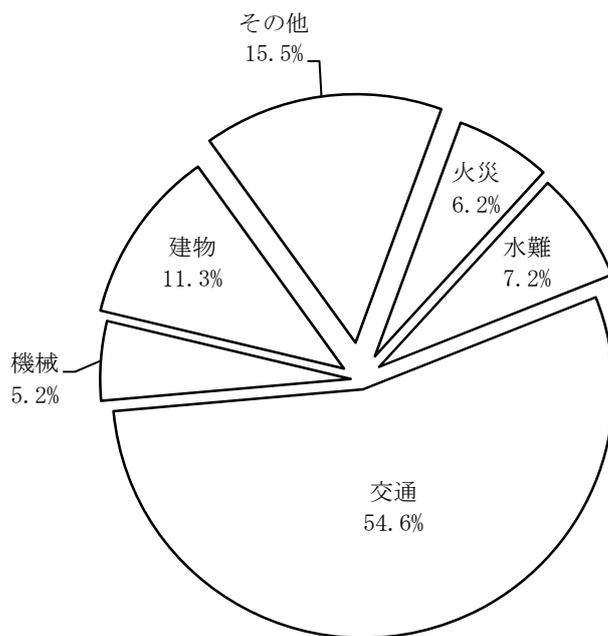
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
出場件数	44	17	77	0	6	7	0	0	19	170

別図Ⅲ-2 事故種別救助活動状況



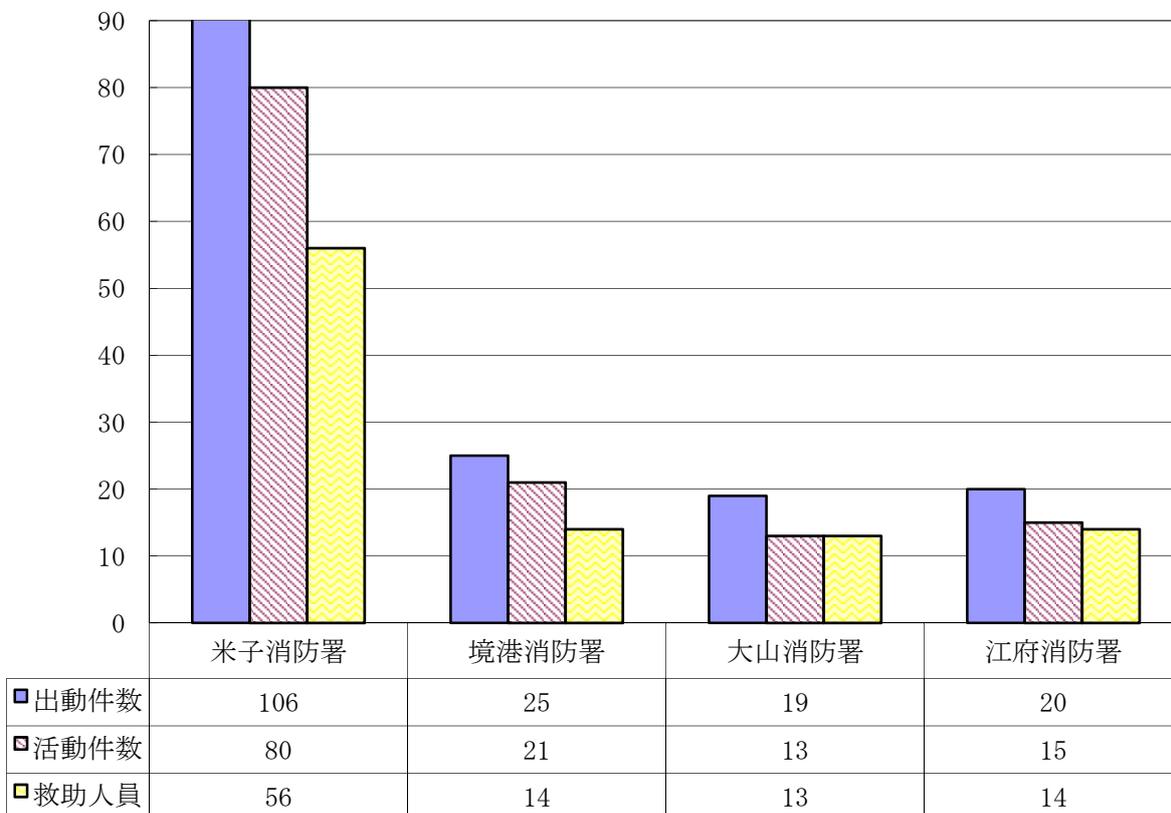
事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
活動件数	44	8	51	0	5	6	0	0	15	129

別図Ⅲ-3 事故種別救助人員状況

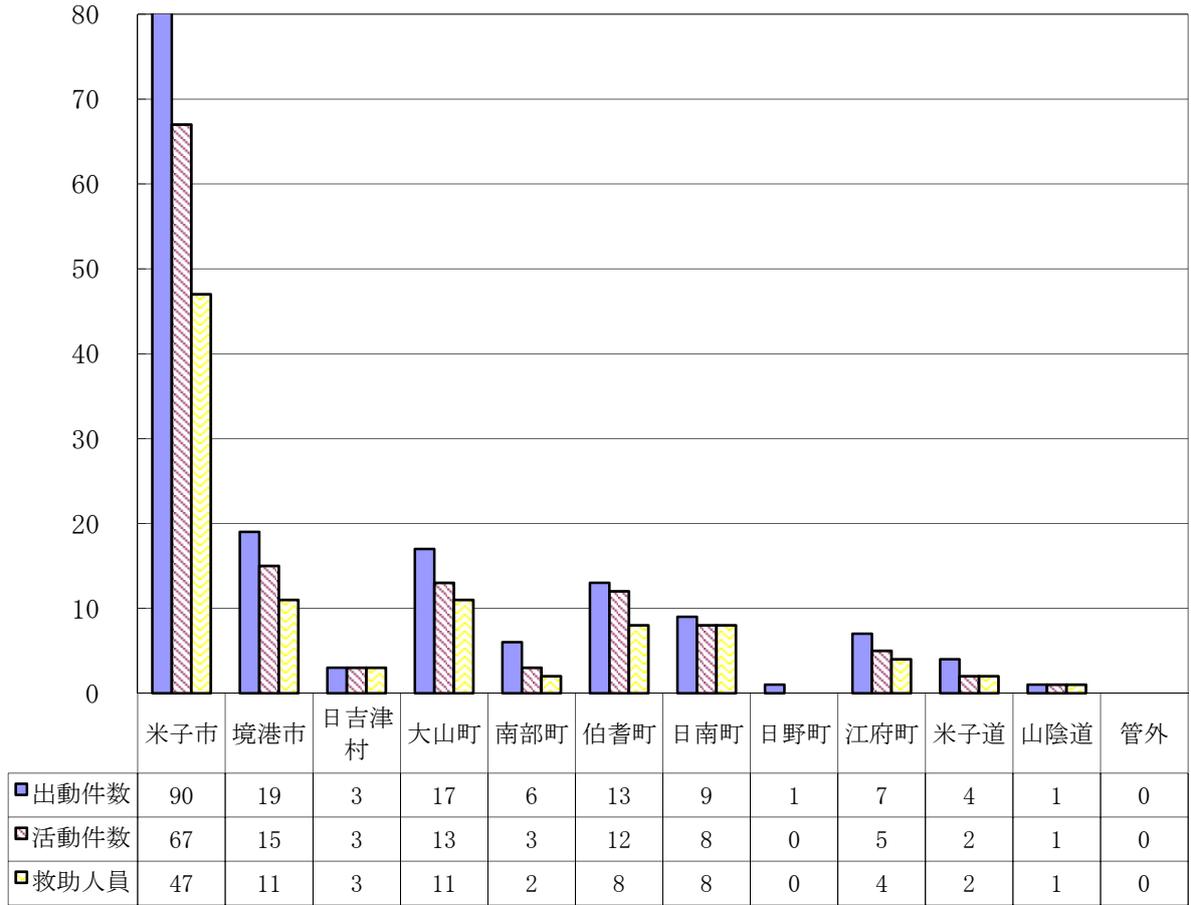


事故種別	火災	水難	交通	風水害	機械	建物	ガス	破裂	その他	計
救助人員	6	7	53	0	5	11	0	0	15	97

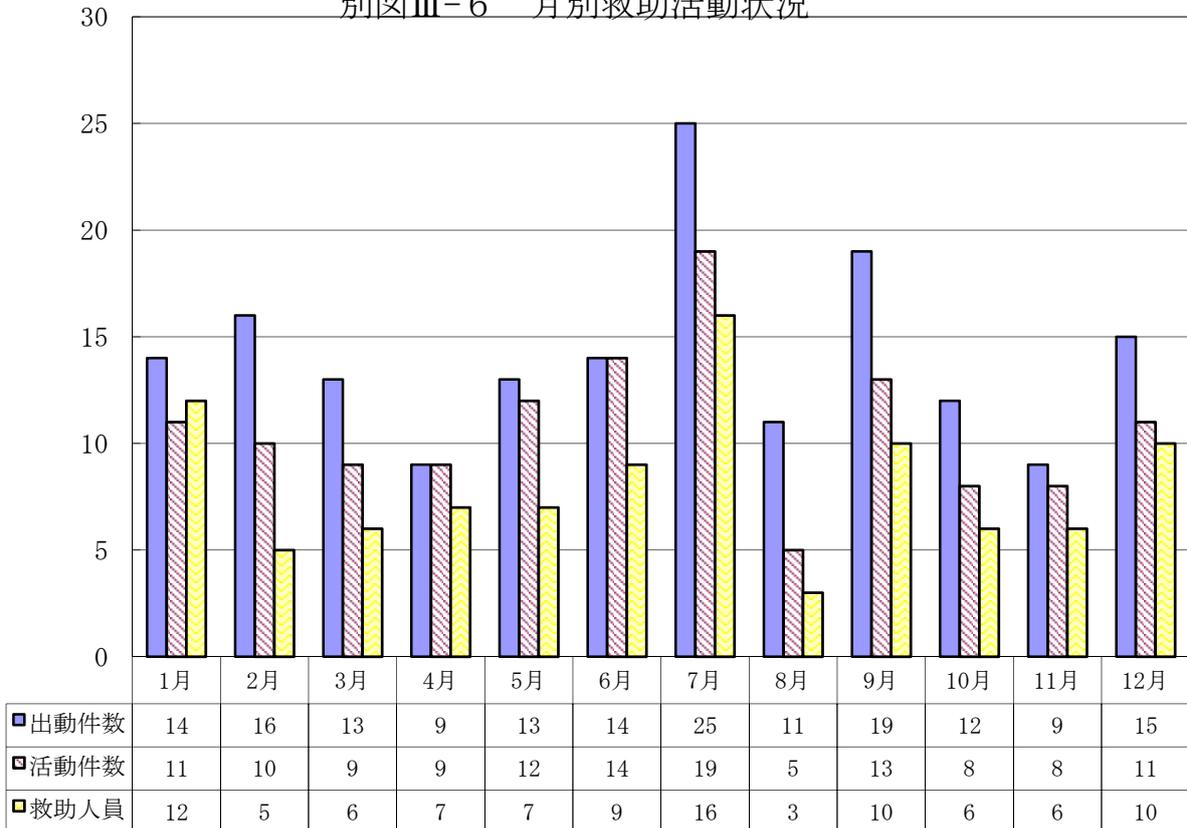
別図Ⅲ-4 管轄別救助活動状況



別図Ⅲ-5 市町村別救助活動状況



別図Ⅲ-6 月別救助活動状況



119番着信概況



IV. 119番着信概況

(平成21年1月～12月)

1 概況

平成21年中の119番通報は、総着信件数で11,809件でした。昨年に比べて8件(-0.07%)少なくなっています。1ヶ月平均では約984件、1日平均では約33件の着信となります。通報内容としては、救急通報が最も多く8,126件(68.8%)、火災通報は193件(1.6%)でした。そのほかの通報としては、間違いが766件(6.5%)、通報訓練などの通報が1,311件(11.1%)、休日・夜間などに病院に関する問い合わせ等が1,110件(9.4%)となっており、悪戯と思われるものも139件(1.2%)ありました。

(別表IV-1、別図IV-1参照)

2 月別の着信状況

月別での平均着信件数は、984件で、最も多かったのは12月の1,111件、最も少なかったのは4月の888件です。火災通報の月平均着信件数は16件で、最も多かったのは1月の29件、最も少なかったのは7月と11月の3件でした。救急通報の月平均着信件数は約677件で、最も多かったのは1月の797件、最も少なかったのは4月の626件でした。

(別表IV-2、別図IV-2参照)

3 電話種別による通報状況

17年7月よりIP電話からの119番通報ができるようになりました。21年は1,537件で全通報件数の13%を占め前年比66%増と急増傾向にあります。

災害別の通報状況として、固定電話(IP電話含む)と携帯電話の通報比率を事故種別ごとに見ますと、火災など多くの人の目に付きやすい場合のほか、交通事故などの屋外での事故の場合に、携帯電話の比率が高くなっています。

(別表IV-3、IV-4、別図IV-3、IV-5参照)

4 携帯電話からの着信状況

携帯電話からの119番通報は3,181件で、全着信件数の27%でした。携帯電話で119番通報されますと、必ずしも電話をされた地区を管轄する消防本部に接続されるとは限りません。管轄地区以外からの通報は、その地区を管轄する消防本部に電話を転送し対応してもらいます。これを転送処理件数として別表としています。他の消防本部への転送処理件数は38

件あり、松江消防が27件と最も多く、次いで安来消防が7件となっています。

(別表Ⅳ-3、別表Ⅳ-5、別表Ⅳ-6、別図Ⅳ-3参照)

5 時間帯別119番通報の着信状況

時間帯別119番通報の着信件数は、活動時間帯（午前8時頃～午後9時）に大半を占めていて、睡眠時間帯（午後10時～午前6時）では午前4時まで時間の経過とともに件数が少なくなっています。

(別図Ⅳ-4参照)

別表Ⅳ-1 119番着信件数の推移

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
平成17年	401	8,554	—	140	1,137	962	259	1,635	13,088
平成18年	347	8,847	73	104	1,200	894	197	1,038	12,700
平成19年	222	8,488	71	106	1,063	927	100	1,186	12,163
平成20年	192	8,162	53	107	1,054	877	147	1,225	11,817
平成21年	193	8,126	62	102	1,110	766	139	1,311	11,809

別表Ⅳ-2 月別119番着信状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
1月	29	797	4	3	112	72	11	63	1,091
2月	22	628	4	7	82	68	13	67	891
3月	17	642	5	8	64	52	9	163	960
4月	23	626	4	8	75	59	9	84	888
5月	19	694	3	10	114	62	11	80	993
6月	24	627	5	9	93	52	18	122	950
7月	3	683	13	6	83	71	16	73	948
8月	14	644	6	6	111	84	13	48	926
9月	19	645	4	10	101	82	9	105	975
10月	10	655	7	16	98	53	10	139	988
11月	3	700	5	13	78	49	10	230	1,088
12月	10	785	2	6	99	62	10	137	1,111
合計	193	8,126	62	102	1,110	766	139	1,311	11,809
月平均	16.1	677.2	5.2	8.5	92.5	63.8	11.6	109.3	984

別表Ⅳ－３ 電話種別による１１９番着信件数の推移

	固定電話からの 着信件数	携帯電話からの 着信件数	I P電 話	合 計
平成１７年	９，７６７	３，３２１	－	１３，０８８
平成１８年	９，２５８	３，１３２	３１０	１２，７００
平成１９年	８，４８２	３，１１６	５６５	１２，１６３
平成２０年	７，７１６	３，１７４	９２７	１１，８１７
平成２１年	７，０９１	３，１８１	１，５３７	１１，８０９

別表Ⅳ－４ 電話種別毎の通報状況

	火災	救急	救助	警戒	問合せ	間違い	悪戯	訓練等	合計
固定電話	74	5,040	18	25	451	294	42	1,147	7,091
携帯電話	93	1,967	42	66	508	352	70	83	3,181
I P電話	26	1,119	2	11	151	120	27	81	1,537
合 計	193	8,126	62	102	1,110	766	139	1,311	11,809

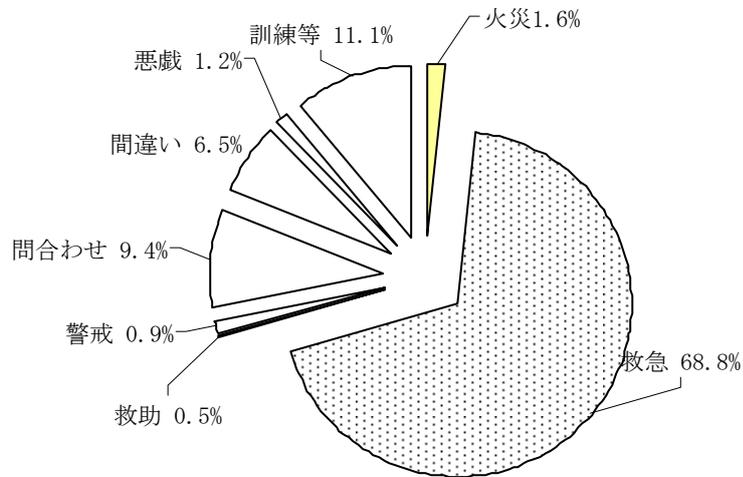
別表Ⅳ－５ 携帯電話からの着信状況

西部消防圏域内の災害などの着信件数			他の消防機関に 転送をした件数
直接通報を 受けた件数	他の消防機関から 転送受信した件数	総着信件数	38
3,163	18	3,181	

別表Ⅳ－6 携帯電話の消防機関別転送状況

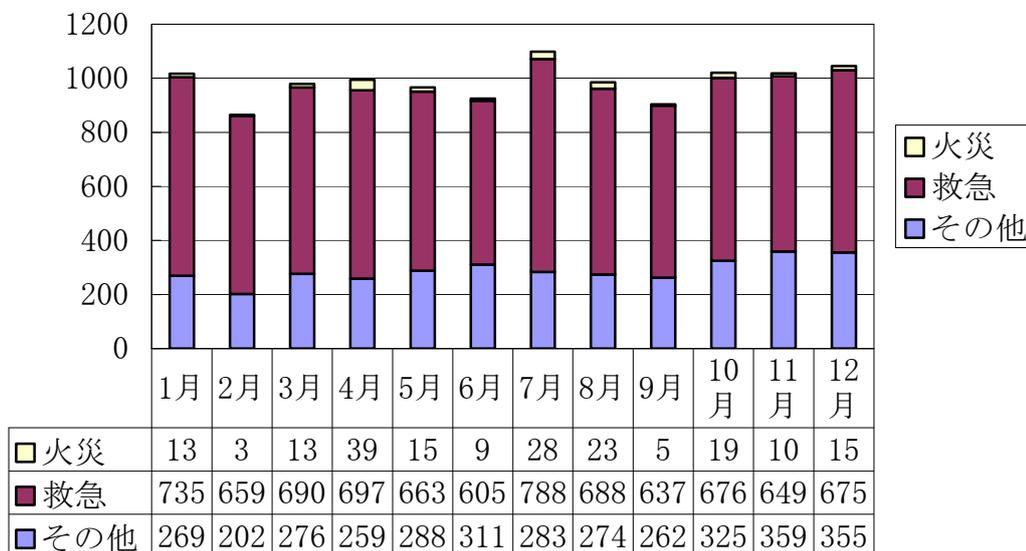
他の消防機関から転送を受信した件数					他の消防機関に転送した件数				
消防	火災	救急	その他	合計	消防	火災	救急	その他	合計
松江		6	1	7	松江	3	23	1	27
安来	1	3	2	6	安来		6	1	7
雲南					雲南			2	2
東部		2		2	東部				
中部		3		3	中部				
新見					新見		1		1
真庭					真庭		1		1
津山					津山				
備北					備北				
合計	1	14	3	18	合計	3	31	4	38

別図Ⅳ－1 通報内容別着信状況



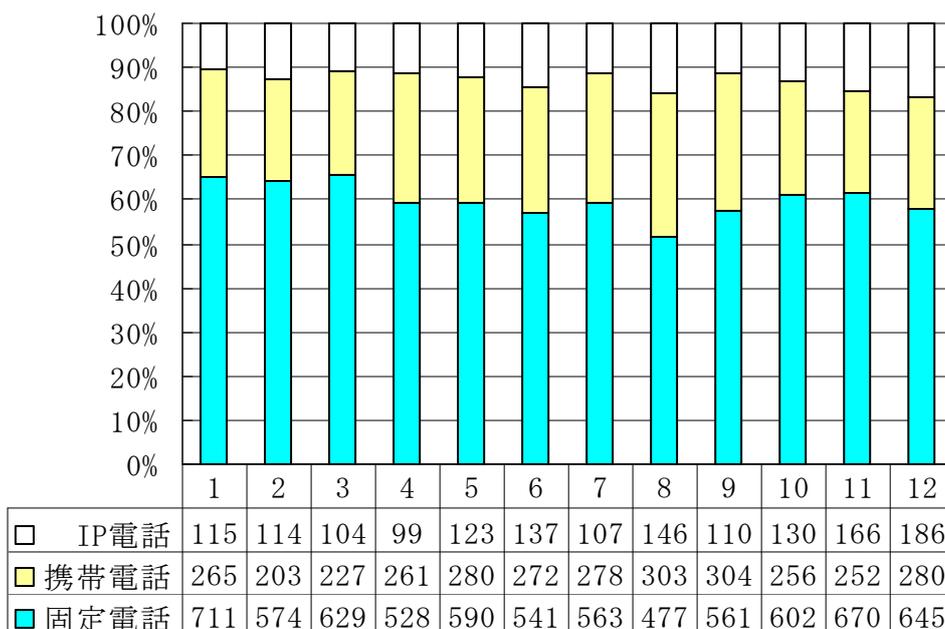
別図Ⅳ－ 2

月別着信状況



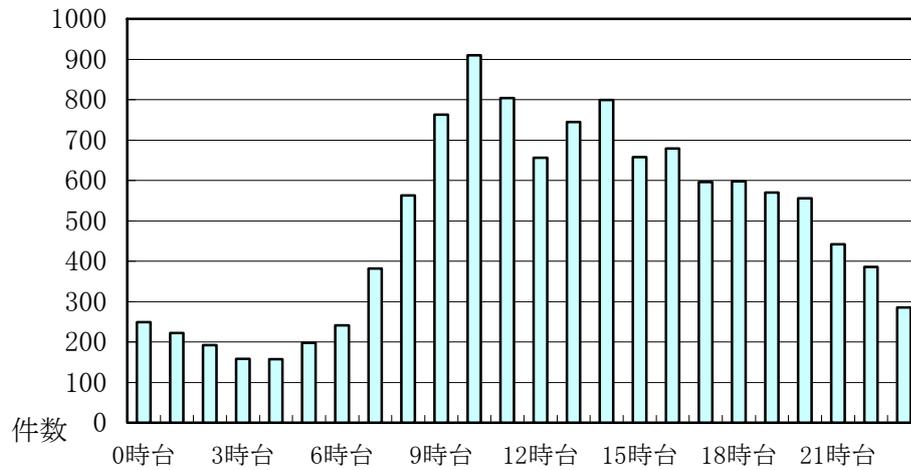
別図Ⅳ－ 3

電話種別毎の着信比率



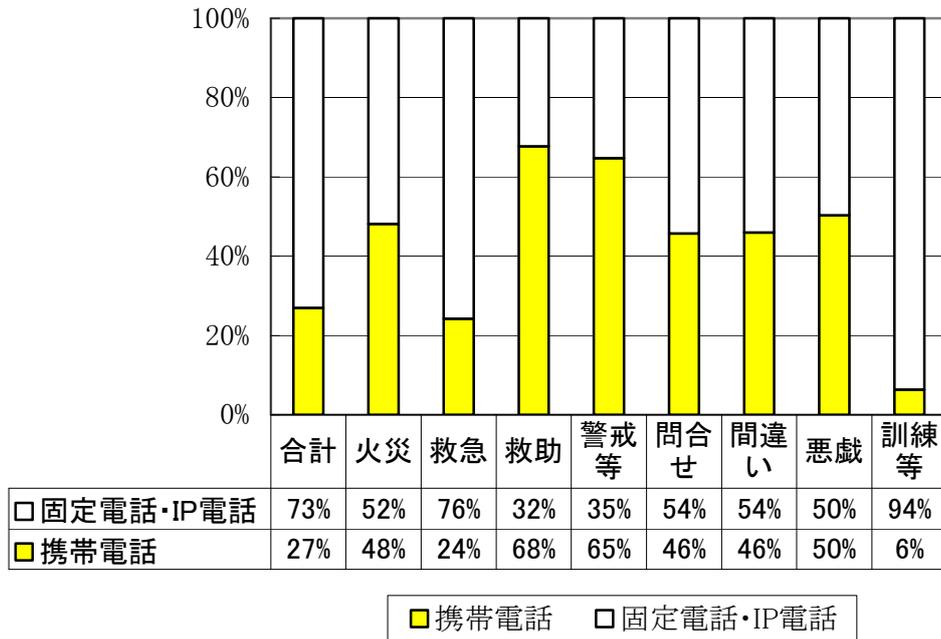
別図Ⅳ－４

時間帯別着信件数の推移



別図Ⅳ－５

電話種別による通報状況



消防団・水利 大火災記録



消 防 団

消防団の人員と装備

平成22年4月1日現在

人 員		人 員									消 防 車 輛 等			
		定員	実員	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	消防ポンプ車	小型ポンプ積載力車	小型ポンプ	手引ポンプ
市町村別														
合 計		1,394	1,296	9	19	71	73	72	204	848	50	24	87	0
米 子 市		544	513	1	4	28	28	55	117	280	15	9	1	-
境 港 市		116	110	1	2	6	8	7	14	72	6	-	-	-
西 伯 郡	日 吉 津 村	35	25	1	2	-	-	-	3	19	2	-	-	-
	大 山 町	171	156	1	3	10	10	10	20	102	8	2	82	-
	南 部 町	148	141	1	2	7	7	-	14	110	5	3	1	-
	伯 耆 町	163	141	1	2	7	7	-	14	110	4	4	-	-
日 野 郡	日 南 町	103	103	1	1	7	7	-	7	80	5	3	-	-
	日 野 町	64	60	1	2	4	4	-	7	42	3	2	3	-
	江 府 町	50	47	1	1	2	2	-	8	33	2	1	-	-

管内水利状況

平成22年4月1日現在

区分 市町村別		水利				
		基準数	現 有 数			
			公設消火栓 (150mm以上)	公設水槽 (40t以上)	その他	計
合 計		4,233	1,541	917	844	3,302
米 子 市		1,749	1,059	204	228	1,491
境 港 市		465	364	58	15	437
西 伯 郡	日吉津村	72	40	0	28	68
	大山町	389	8	254	21	283
	南部町	216	11	123	95	229
	伯耆町	248	34	135	82	251
日 野 郡	日南町	508	0	62	188	250
	日野町	218	3	19	136	158
	江府町	368	22	62	51	135

大 火 災 記 録

1. 米 子 市 (建物焼失面積 1, 000 m²以上)

- ・昭和 30 年 4 月 8 日 (美保少年院火災)

午前 11 時 30 分、大篠津町美保少年院から出火し、9 棟延 2, 577 m²を焼失した。

損害額約 1, 218 万円、原因……煙草吸殻。

- ・昭和 31 年 12 月 21 日 (田中木工所火災)

午後 9 時 0 分、富士見町二丁目 155 番地田中木工所から出火し、周囲の民家にも延焼して 9 棟延 1, 793 m²を焼失した。損害額約 1, 325 万円、原因……こたつの過熱。

- ・昭和 34 年 7 月 22 日 (石垣木工所火災)

午前 4 時 25 分、米原 1, 496 番地石垣木工所から出火し、全焼 7 棟、半焼 2 棟延 2, 027 m²を焼失した。損害額約 2, 215 万円、原因……不明。

- ・昭和 37 年 12 月 11 日 (山一ベニヤ火災)

午前 0 時 10 分、角盤町四丁目 30 番地有限会社山一ベニヤ製作所から出火し、周囲の民家にも延焼して全焼 7 棟、半焼 2 棟延 1, 828 m²を焼失した。

損害額約 2, 192 万円、原因……電気アイロンの過熱。

- ・昭和 40 年 4 月 7 日 (義方小学校火災)

午前 1 時 38 分、立町四丁目義方小学校から出火し、延 1, 301 m²を焼失した。

損害額約 1, 973 万円、原因……不明。

- ・昭和 43 年 8 月 4 日 (米子木工株式会社火災)

午後 1 時 43 分、米原 1, 491 番地米子木工株式会社から出火し、延 1, 470 m²を焼失した。

損害額約 4, 894 万円、原因……熔断の火の粉が塗料かすに着火。

2. 境 港 市 (建物焼失面積 1, 000 m²以上及び特殊火災)

- ・昭和 10 年 1 月 12 日 (栄町大火)

午後 7 時 55 分、栄町三勇庵 (置屋業) から出火し、全焼 381 戸の大火となった。

損害額約 180 万円、原因……灯明の火、以後 1 月 12 日を火災記念日とする。

- ・昭和 10 年 11 月 24 日 (中町火災)

午前 1 時 50 分、中町墓地からの飛火により共有地から出火し、全焼 11 戸、半焼 3 戸の大火災となった。原因……不明。

- ・昭和 18 年 12 月 30 日 (石橋造船火災)

午前 8 時頃、岬町石橋造船所から出火し、造船工場・事務所・製材所など 6 棟を焼失した。

損害額 70 万円、原因……焚火。

- ・昭和 20 年 4 月 23 日 (玉栄丸爆発)

午前 7 時 40 分、陸軍徴用船玉栄丸積載の火薬が爆発し、全焼 76 戸、全壊 355 戸、被災面積 1, 426 m²に及び、消防団員 5 名が殉死した。

- ・昭和 24 年 4 月 18 日 (京町火災)

午前 10 時 30 分、京町置屋業真木方から出火し、全焼 5 棟、半焼 4 棟、延 1, 426 m²を焼失した。

原因……不明。

- ・昭和35年2月2日（日の丸窯業火災）

午前6時4分、弥生町日の丸窯業から出火し、延1,266㎡を焼失した。

損害額約905万円、原因……乾燥機過熱。

- ・昭和38年4月10日（日の出館火災）

午後11時45分、日の出町映画館日の出館から出火し、延443㎡を全焼した。

損害額615万円、原因……不明。

- ・昭和39年2月24日（中浜小学校火災）

午後11時頃、小篠津町中浜小学校給食室から出火し、138㎡を焼失した。

損害額85万円、原因……取灰。

- ・昭和41年8月28日（第一水産火災）

午後4時5分、上道町水産加工場から出火し、延1,589㎡を焼失した。

損害額約1,599万円、原因……魚油の自然発火。

- ・昭和45年6月24日（石橋造船火災）

午前0時35分、岬町石橋造船所から出火し、延1,980㎡を焼失した。

損害額約1,292万円、原因……不明。

- ・昭和48年11月18日（丸神海産火災）

午後9時35分、栄町の水産加工場から出火し、延2,953㎡を焼失した。

損害額約8,015万円、原因……不明。

3. 広域消防発足後（建物焼失面積1,000㎡以上）

- ・昭和51年9月6日（朝日座火災）

午後2時6分、米子市朝日町65番地映画館朝日座から出火し、延1,302㎡を焼失した。

損害額約1,353万円、原因……不明。

- ・昭和58年6月4日（米子林産工業(株)火災）

午前1時頃、米子市錦町3丁目24番地米子林産工業(株)から出火し、延2,502㎡を焼失した。

損害額約4,780万円、原因……不明。

- ・平成3年4月4日（有景山商店火災）

午前4時9分頃、境港市中野町官有無番地有景山商店加工場より出火し、延1,168㎡を焼失した。損害額3,217万円、原因……不明。

- ・平成16年10月27日（山陰食鶏）

午前9時30分頃、西伯郡淀江町中間16山陰食鶏より出火し、延1,068㎡を消失した。

損害額5,978万円、原因……溶接機の火粉

- ・平成17年8月25日（阿部木工所）

午後7時20分頃、米子市富益町1268阿部木工所より出火し、延1,605㎡を消失した。

損害額5,805万円、原因……不明

- ・平成22年1月24日（三光株式会社昭和工場）

午後5時5分頃、境港市昭和町5-1三光株式会社昭和工場より出火し、延3,021㎡を消失した。

損害額1,251万円、原因……不明

関 係 団 体



〔 米子市危険物保安協会 〕

平成 21 年度事業報告

1. 調査研究の部

(1) 危険物保安技術協会保安講習会 (東京)

平成 21 年 7 月 2 日～3 日

事務局 1 名参加

(2) 先進地視察研修

平成 21 年 12 月 3 日～4 日

13 名参加

コスモ石油(株)四日市製油所 (三重県四日市市)

2. 研修の部

(1) 新規採用職員防災研修会

平成 21 年 6 月 26 日 西部消防局

89 名参加

(2) 鳥取県危険物取扱者保安講習 (法定講習)

平成 21 年 8 月 17 日 米子市福祉保健センター

149 名参加

平成 21 年 8 月 18 日

〃

137 名参加

3. 講習会の部

(1) 第 1 回危険物取扱者試験準備講習会

乙種 4 類 平成 21 年 5 月 13 日～15 日

39 名参加

合格率 70.9% (県平均 31.6%)

丙 種 平成 21 年 5 月 18 日

3 名参加

合格率 100% (県平均 71.6%)

(2) 第 2 回危険物取扱者試験準備講習会

乙種 4 類 平成 21 年 10 月 7 日～10 日

61 名参加

合格率 53.8% 高校生 17.8%

(県平均 27.3%)

丙 種 平成 21 年 10 月 9 日

4 名参加

合格率 80.0% (県平均 63.3%)

(3) 第 3 回危険物取扱者試験準備講習会

乙種 4 類 平成 22 年 1 月 6 日～8 日

31 名参加

合格率 56.0% (県平均 36.3%)

4. あっ旋事業の部

(1) 西部広域火災予防例規集の作成

(2) 火災予防例規集、標識・掲示板等のあっ旋

5. 広報活動の部

- (1) 会報 (第 69 号) 作成配布 8 月
- (2) 会報 (第 70 号) 作成配布 3 月

6. 防火協力の部

住宅防火対策推進シンポジウムの新聞広告掲載

7. 会議の部

(1) 正副会長会議

平成 21 年 5 月 14 日 米子ワシントンホテル

(2) 定期総会、役員会

平成 21 年 6 月 18 日 西部消防局

(3) 鳥取県危険物保安協会連合会理事会

平成 21 年 7 月 10 日 境港市夢みなとタワー

(4) 新年役員会

平成 22 年 1 月 27 日 皆生グランドホテル天水

8. その他

(1) 全国危険物安全大会及び表彰式

平成 21 年 6 月 8 日 東京 米子協会随員

(2) 鳥取県危険物保安協会連合会並びに鳥取県知事表彰

平成 21 年 7 月 10 日 境港市夢みなとタワー

〔米子自衛防火協会〕

平成21年度事業報告

1. 調査研究の部
 先進地視察研修
 平成21年12月3日～4日
 コスモ石油(株)四日市製油所（三重県四日市市）
13名参加
2. 研修の部
 新規採用職員防災研修会
 平成21年6月26日 西部消防局
89名参加
3. 会報発刊の部
 (1)会報（第57号）作成配布 8月
 (2)会報（第58号）作成配布 3月
4. 防火思想普及の部
 (1)秋季火災用週間の広報チラシ作成
 (2)防災DVD購入
 「いのちを守る 福祉施設火災の初期対応」
 「職場を守る 防火管理」
 「職場の中の消防設備」
 (3)防火ビデオ・フィルムの貸し出し
5. 防火協力の部
 住宅防火対策推進シンポジウムの新聞広告掲載
6. 会議の部
 (1)定期総会、役員会
 平成21年6月11日 西部消防局
 (2)新年役員会
 平成22年1月27日 皆生グランドホテル天水
7. その他
 (1)甲種防火管理新規講習会及び再講習の図書斡旋
 (2)自衛消防業務追加講習の図書斡旋

平成21年度 事業報告

1. 会報の発行
3月1日 会報第51号発行
2. 消火訓練会の開催
事業所、自治会を対象に消火訓練会を開催
3. 防火ビデオの貸し出し
事業所、保育園等に防火ビデオの貸し出し
4. 消火競技会の開催
9月28日(月)第30回事業所対抗消火競技会を開催 14チーム・28名参加
優勝 吉備総合電設 Aチーム
第2位 国際航空給油所カフコ
第3位 アクティ境港営業所Aチーム
特別賞 済生会境港総合病院チーム
5. 火災科学セミナーの出席
11月6日(金)社団法人日本火災学会主催の火災科学セミナーに事務局員2名参加(横浜会場)
6. 講習会の開催
危険物取扱者試験準備講習会の開催
5月、10月の年2回
7. 会議関係
(1) 境港市保安協会関係
4月22日 役員会議
5月27日 第50回 総会
(2) 鳥取県危険物保安協会連合会関係
5月1日、3月9日 事務局長会議(倉吉市ほか)
7月10日 理事会(境港市)
4月14日 正副会長会(倉吉市)
8. 表彰関係
5月27日 定例表彰 個人1、事業所2
9. その他
(1) 境港市消防保安協会創立50周年記念行事(夢みなとタワー)
(2) 6月21日 境港市消防団ポンプ操法大会に協力(優勝第六分団)
(3) 6月、11月、1月の危険物取扱者試験実施案内
(4) 8月17日、18日の危険物取扱者保安講習開催案内

平成21年版 消防年報

平成22年10月 発行

編集・発行 鳥取県西部広域行政管理組合消防局

〒683-0853鳥取県米子市両三柳5452番地

TEL (0 8 5 9) 3 5 - 1 9 5 1

FAX (0 8 5 9) 3 5 - 1 9 6 1
